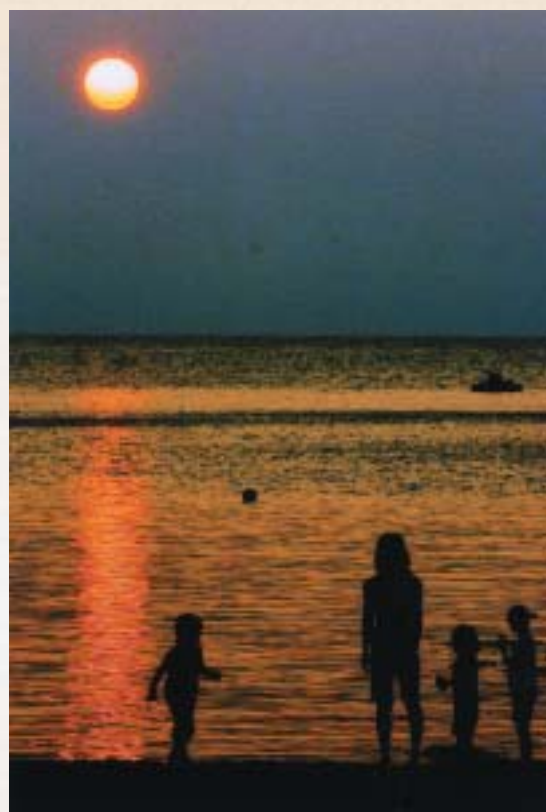


第1回丹後の四季を撮ろう「フォトコンテスト」入選作品決定



京丹後市長賞 「冬、朝のひとしごと」
清水 まさ子さん（久美浜町）



（社）京都府観光連盟会長賞
「晩 夏」
荻野 博さん（峰山町）



京都府知事賞 「桃の里」
川見 久雄さん（網野町）

市では、「新・丹後王国“京丹後”」をテーマに「第1回丹後の四季を撮ろう『フォトコンテスト』」を実施。結果、市内の自然や催し、祭りなど四季の風物詩をとらえたすばらしい129点（71人）のご応募をいただき、このたび入選作品が決定しました。

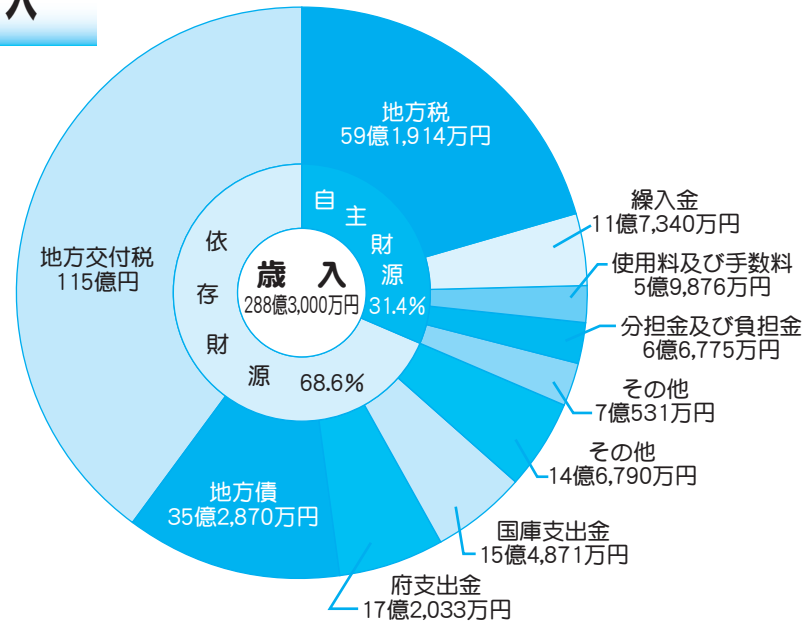
主な内容

◆平成19年度京丹後市予算

「行財政改革を進めつつ、〈選択と集中〉による 地域力・市民力の開拓支援型予算」
～丹後の底力の再生～

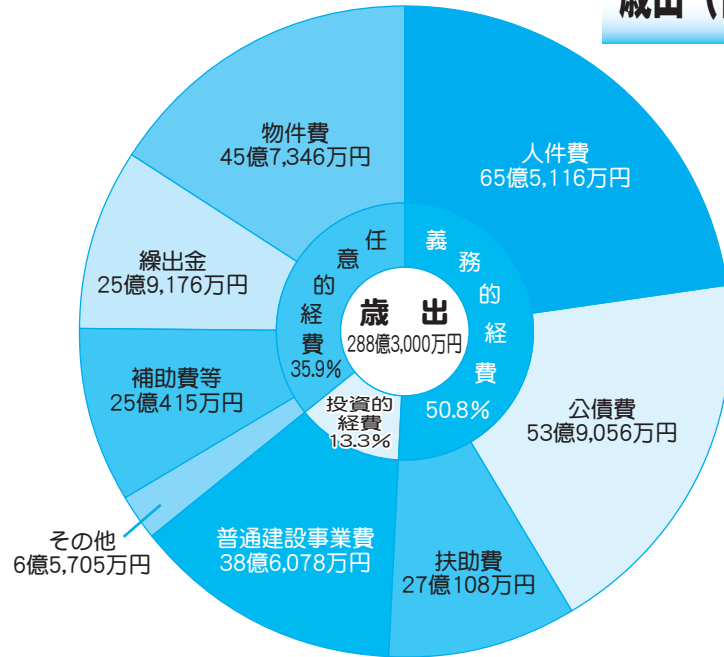
◆農村整備に「環境との調和」を最重視 「京丹後市農村環境計画」を策定

歳 入



- ◆地方税
市民税・固定資産税など
- ◆使用料及び手数料
公共施設の使用料や住民票の発行手数料など
- ◆分担金及び負担金
保育所の保育料や老人福祉施設措置費など
- ◆繰入金
財源確保などのため、基金を取り崩すもの
- ◆国庫・府支出金
国・府からの負担金や補助金、委託金
- ◆地方債
建設事業などを行うための長期の借入金
- ◆地方交付税
一定水準の行政サービスを保つための国からの交付金

歳出 (性質別)



- ◆人件費
理事者（市長・副市長・教育長）、議会議員、職員の給与など
- ◆公債費
市債の元利償還金や一時借入金の利子
- ◆扶助費
生活保護費や医療給付費など
- ◆普通建設事業費
道路や学校、公共施設整備などの経費
- ◆補助費等
各種団体への補助金や各地区への交付金など
- ◆繰出金
特別会計に支出するもの
- ◆物件費
旅費、委託料、光熱水費、備品購入費など

平成19年度京丹後市予算

『行財政改革を進めつつ、〈選択と集中〉による
地域力・市民力の開拓支援型予算』
～ 丹後の底力の再生 ～

『ひと、みず、みどり 歴史と文化が織りなす交流のまち』を将来像として掲げる京丹後市の平成19年度予算につきましては、京丹後市行財政改革大綱に基づく「行財政改革推進計画」(集中改革プラン) および「第一次京丹後市総合計画」との整合を図りながら、本格的なまちづくりを進めるための予算としています。

国が策定した平成十九年度の地方財政計画では、地域において必要な行政課題に対して適切に財源措置を行い、安定的な財政運営に必要な地方交付税などの総額を確保するとしています。全国ベースでの地方交付税は、前年比四・四％減となっているなど、本市の歳入の基幹をなしている地方交付税が減少傾向となっているため、財源状況は一層厳しいものになると想定しています。

この懸念の事業については、積極的に予算計上しています。

市政を取り巻く社会経済環境は、大きな変革の真只中にあり、地方分権の進展により、地方自治体の果たす役割は、ますます大きくなると同時に、行政分野においても地域間競争と自己決定・自己責任の中で、周到に先を予測し、市として主体的に判断をすることが重要と考えています。

また、厳しい財政状況を克服し、京丹後市が今後発展するためには、いわゆる「地域力」、「市民力」の開拓とそれへの支援が欠かせません。

この地域力・市民力を精一杯研究開発に努める中で、丹後の地力(じりき)、丹後

一般会計	288億3,000万円
特別会計合計	242億8,960万円
国民健康保険事業	68億1,000万円
国民健康保険直営診療所事業	4億2,700万円
老人保健事業	67億3,000万円
介護保険事業	43億8,400万円
介護サービス事業	7億 500万円
簡易水道事業	11億2,900万円
集落排水事業	4億1,500万円
公共下水道事業	34億6,000万円
浄化槽整備事業	7,750万円
土地取得事業	200万円
工業用地造成事業	6,700万円
宅地造成事業	7,400万円
峰山財産区	670万円
五箇財産区	240万円
公営企業会計	76億6,918万円
水道事業	15億 270万円
病院事業	61億6,648万円
総合計	607億8,878万円

会計の区分

市の会計は、大きく「一般会計」と「特別会計」、「公営企業会計」の三つにわかれています。

「一般会計」は、道路、福祉、教育などの基本的な行政事業を行う会計のことです。

また、「特別会計」とは、国民健康保険や介護保険などのように、保険料や使用料などの特定の収入をもって特定の支出に充てて事業を行う場合など、一般会計と区分して経理するもので、市では十四の特別会計を設けています。

一方、収益がある水道事業と病院事業については、地方公営企業法という法律に基づき、「公営企業会計」として設けています。

予算総額

一般会計
対前年度一・三％増

一般会計は、平成十八年度に比べ三億八

行財政改革を進めつつ、選択と集中による 地域力・市民力の開拓支援型予算 ～丹後の底力の再生～

「協働と共創のまちづくり」、「地域資源を活かしたまちづくり」、「行財政の健全化」の各種施策を積極的に取り組み、夢が持て「住み続けたいふるさと京丹後市」をめざしたまちづくりを推進していきます。「京丹後市総合計画」の6つの基本方針の区分により一般会計の主な事業をご紹介します。

一般会計の主な事業（●＝新規、◎＝拡大など、○＝継続）

◎「農地・水・環境保全対策支援」事業負担金 【農林水産業費】 1,838万円

農家以外の地域の住民と一緒に、地域全体で農地・農業用施設などの資源や景観・生態系の保全なども含めた環境保全を行う活動を支援し、地域共同の取り組みと、環境体験学習の実施なども含めた農村地域の活性化および持続的な資源保全を図ります。

●「海業体験」事業【農林水産業費】 24万円

海業体験モデル事業として、定置網漁業体験事業などを実施します。



定置網体験

◎「農村振興総合整備」事業 【農林水産業費】 4億1,207万円

大宮町河辺西部地区において農業生産基盤と生活環境基盤を一体的に整備し、ゆとりと安らぎのある居住環境の改善を図ります。

●「産学連携推進コーディネート」事業 【商工費】 203万円

京都工芸繊維大学と連携し、起業アイデアコンペティション、産学官連携フォーラムなどを開催します。また、産学連携のコーディネートも行い、市内産業の振興を図ります。

I ひと・もの・ことが行き交う 交流経済都市

●「体験型旅行協議会(仮称)」設立【総務費】 88万円

市内各産業をそれぞれ体験・交流型の産業として育成・活用し、市内全体を観光・交流の拠点とするための推進母体となる協議会を設立します。

●「農村コミュニティ再生・活性化事業」補助金 【農林水産業費】 175万円

都市圏の住民を当市に受け入れ、農業をはじめ市内各産業の現場で体験・交流を行う活動（NPO法人日本都市農村交流ネットワーク）を支援するため補助金を交付します。

●「総合魅力・情報発信」【総務費】 140万円

首都圏でのPRイベントや関西圏大手デパートを利用し、京丹後市の魅力や情報を積極的に発信します。

●「京丹後市共創市民制度(仮称)」創設 【総務費】 110万円

都市圏などの京丹後市出身者や共鳴者のみなさんを「京丹後市共創市民（仮称）」として、まちづくりパートナーとなつていただく制度を創設します。

●「環境保全型農業資材普及支援」事業補助金 【農林水産業費】 160万円

環境に配慮した営農を推進するため、生分解性マルチフィルムの購入経費の一部を助成します。

●「猪・鹿肉有効活用」研究開発 【農林水産業費】 150万円

有害鳥獣である猪や鹿を有効活用し、地域活性化に結びつけるための調査・研究を実施します。

一般会計

歳入

一般会計の歳入予算は、「自主財源」と「依存財源」に分けることができます。

「自主財源」は、市が自ら徴収できる財源で、市税や使用料、分担金などがこれにあたり、行政活動の自主性と安定性を確保できているかどうかの尺度となるもので、十九年度は九十億六千四百三十六万円、全体の三一・四％を占めています。

また、「依存財源」は、国や府から入るお金や借入金などで、地方交付税や国庫支出金、市債などがこれにあたり、総額は百九十七億六千五百六十四万円、六八・六％を占めています。

歳出

本年度は、山積する行政課題、多様化する市民のみなさんの要望に対応するため、後年度の財政運営を考慮しながら、財源については、収入の柱となる地方交付税を最大限に見込み予算計上するとともに限りある基金を繰り入れて財源を確保しています。

市では、「行財政改革推進計画」に基づき平成二十一年度の基礎的な財政規模を二百七十億円程度とすることをめざしています。そこで十九年度は、歳出決算規模を二百八十四億円程度を目標としつつ、必要最小限の新規事業や市民生活において先延ばしできない情報化の地域格差解消となるブロードバンドネットワーク整備事業などの懸案事業については積極的に計上。一方、各種補助金や物件費の見直しを積極的に実施したのをはじめ、特別職・一般職の人件費を抑制するなど、経常経費

特別会計

京丹後市には、一般会計の他に十四種類の特別会計と水道事業、病院事業という二つの企業会計を設置しています。特別会計の予算総額は、二百四十二億八千九百六十万円で前年度二百三十六億九千九百五十万円と比べ五億九千九百十万円、二・五％の増額となりました。これは、平成十八年十月に創設された保険財政共同安定化事業拠出金が追加された国民健康保険事業特別会計、また網野浄化センター建設に着手する公共下水道事業特別会計で大きく増加したことに由来するものです。

また、企業会計の予算総額は、七十六億六千九百十八万円で、前年度七十五億二千二百二十五万円に比べ一億四千六百九十三万円、二・〇％の増額となっています。

開かれた 透明性の高い 市政の推進 予算編成過程を公開

開かれた透明性の高い市政を引き続き推進するとともに、市民のみなさんの市政に対する理解度を深めていただくことを願い、市民総監視の中での予算編成に資するため、平成十九年度当初予算編成におきましても、予算編成過程の公開、地区要望に対する第一次査定状況を公開し予算措置状況を再度確認していただく取り組みも引き続き実施しています。

※平成十九年度予算については、後日発行予定の本紙「予算特集号」で詳しくお知らせします。

◎「放課後児童健全育成」事業【民生費】 3,274万円

子育て支援事業として実施している放課後児童クラブの運営経費。

※予算未措置ですが、平成19年度から小学校施設を利用し新たに2か所を開設します。
長岡小学校（峰山町）、網野南小学校（網野町）

●「学校情報化」推進【教育費】 5,135万円

小・中学校の情報化を推進するため、計画的に機器整備などを実施するとともに、教員のIT指導力の向上も図ります。

◎「網野中学校管理棟」改築【教育費】 5億4,980万円

老朽化が著しい網野中学校管理棟の改築経費。
（平成19年度～20年度の2か年事業）



老朽化が著しい
網野中学校管理棟

●「図書館システム」統合【教育費】 2,699万円

図書館システムを統合し、蔵書管理および図書館サービスの向上を図ります。（平成19年度～20年度の2か年事業）

●「地域こども教室活動」支援【教育費】 200万円

子どもの居場所づくりや、子どもの成長を支援する活動を地域で実施する団体などに対して補助金を交付します。

●「銚子山遺跡発掘」調査【教育費】 156万円

網野銚子山古墳の墳丘裾に存在する周壕の範囲確認調査を実施します。（3か年の継続事業として実施予定）



網野銚子山古墳

●「自殺予防」対策【衛生費】 202万円

“自殺者ゼロ”のまちづくりを実現するため、自殺ゼロ実現推進協議会および関係機関などと連携し、講演会・研修会を実施するとともに、市民のみなさんへの啓発も積極的に行います。あわせて、専任の職員も設置します。

●「災害時要援護者避難支援体制」整備【民生費】 15万円

災害時要援護者の避難支援ガイドラインに基づき、要援護者の避難誘導體制、関係機関の協力体制を検討・確立するとともに、地域の自主的な取り組みも支援します。



三月三日に開かれた「災害ボランティア研修講座」

●「障害者就労」支援【民生費】 516万円

障害者の就労支援事業、知的障害者短期職場実習事業、障害者職場実習事業および障害者雇用促進事業を実施し、障害者の自立と社会参加の促進を支援します。

IV 次代を担う若い力が活躍できる 生涯学習都市

●「ファミリーサポートセンター」創設【民生費】 29万円

地域において子育ての援助を受けたいかと協力したいかたが会員となり、会員同士の子育てに関する相互援助活動の調整などを実施します。

●「森の保育所」創設・活動推進【民生費】 21万円

和田野保育所野間分園を「森の保育所」と位置づけ、弥栄町内保育所へ通所する5歳児を対象とし、自然体験を中心とした保育活動をモデル的に着手します。



和田野保育所野間分園

●「京丹後ブランド品販売促進支援」事業補助金【商工費】 298万円

都市部における京丹後ブランド製品の紹介、販売促進などを行うための移動販売車の購入を支援します。

II 暮らしの中でのいのちが輝く 環境循環都市

●「環境基本計画」策定【衛生費】 760万円

豊かな自然環境を保全し、まちづくりへの調和ある活用を図るため、市民、事業所と一体となり環境基本計画を策定します。（平成19年度～20年度の2か年事業）

○「風力発電システム」設置【衛生費】 160万円

自然エネルギーの普及対策事業として、小型風力発電施設の設置に対して補助金を交付します。



老人福祉施設に設置された小型風力発電機

III 生きる喜びを共有できる 健やか安心都市

●「健康長寿のさとづくり」推進【衛生費】 62万円

高齢者のかたの生きがいと健康長寿をキーワードに蓬萊の郷づくり推進懇談会とも連携し、「(仮称) 生きがい健康活動交流会」の実施など、健康長寿のさとづくりを推進します。



高齢者のかたの生きがいと健康長寿について協議する「蓬萊の郷づくり推進懇談会」

◎「市立病院事業会計」繰出金【衛生費】 7億円

弥栄病院、久美浜病院の経営支援のための一般会計からの繰出金

●「青年会議所近畿地区会員大会」開催支援【総務費】 600万円

青年会議所近畿地区会員大会が京丹後市内で実施され、若手経済人が多く集うことから、開催にかかる支援を行うとともに、京丹後市の魅力をPRします。（7月開催予定）



昨年度の大会で、開催に向け決意を表明された望月前理事長

●「商工業活性化交流」事業【商工費】 111万円

山陰から北陸までの日本海側の各市町村の商工会などとシンポジウムと交流の取り組みを行うとともに、大阪丹後人会との交流を通して企業誘致、販路開拓を推進し、産業の振興を図ります。

●「行政版・知的資産経営報告書」作成【総務費】 36万円

京都工芸繊維大学と連携し、戦略的な行政経営のため各分野の知的資産を探り出し、その活用を図る報告書を作成します。

○「機械金属産業総合振興事業」補助金【商工費】 250万円

中小企業でのものづくりのメッカである東大阪市など他地域との交流促進による販路開拓事業および機械金属業の新商品開発に対して支援します。

●市民ぐるみの「観光ネットワーク」推進【商工費】 70万円

市民観光ガイド研修会の実施、施設の案内および施設利用促進のための地図や割引券の作成など、市民ぐるみの観光振興、もてなしの地域づくりの取り組みを支援します。

●「京丹後ブランドチャレンジショップ創設」運営事業補助金【商工費】 1,600万円

京都市内に情報発信拠点施設を開設し、観光PRと京丹後ブランド製品の紹介、販路拡大と販売促進などを推進する取り組みを支援します。



情報発信拠点施設「京丹後ブランドチャレンジショップ」が京都市上京区で出店

○「防災行政無線」整備【消防費】 3億4,166万円

防災行政無線の未整備地域にデジタルによる屋外拡声子局を整備し、平成19年度中の運用開始をめざすとともに、「全国瞬時警報システム」(J-Alert)の整備も行います。(平成20年度は、戸別受信機を整備を予定しています)



安心・安全なまちづくりに防災行政無線を整備

◎「ブロードバンドネットワーク」整備【総務費】 3億2,302万円

都市部・市内地域間の情報格差を解消するため、光ファイバ網によるブロードバンド基盤を整備します。

効率的な行政運営を図る

●「市民満足度調査」実施【総務費】 73万円

行政評価などの資料として活用するために市民満足度調査を実施します。(7月実施予定)

●「会社組織設立による高品質で効率的な行財政運営を考えるシンポジウム」開催【総務費】 28万円

京丹後市総合サービス㈱の設立を記念し、先進成功市である愛知県高浜市長を招き、会社組織設立による高品質で効率的な行財政運営のあり方を考えるシンポジウムを開催します。(5月開催予定)

●「住民参加型市場公募債」発行事務経費【公債費】 209万円

市民協働のまちづくりを推進する手段の一つとして、住民参加型市場公募債を発行します。
発行予定額 3億円
充当予定事業
ブロードバンドネットワーク整備事業
発行時期 平成19年11月下旬

○「自治会貸与除雪機械」整備【土木費】 1,520万円

自治会に除雪機械を貸与し、市域の除雪力向上と狭い道路での除雪にも対応可能とします。(乗用型4台、歩行型4台)



自治会に除雪機械を貸与し、市民のみなさんと協働による除雪体制の強化を図ります

◎「網野地域内水処理対策」経費【土木費】 3,000万円

網野地域の総合的な内水処理対策を実施するための認可設計および暫定対策工事を実施します。

●「アマチュア無線アンテナ」設置【消防費】 121万円

京丹後市アマチュア無線災害ボランティアとの災害時応援協定に基づき、網野、弥栄、久美浜の3庁舎に無線用アンテナを設置します。



昨年六月に、京丹後市アマチュア無線災害ボランティアと災害時応援協定を締結

●「京都府防災訓練」実施【消防費】 516万円

平成19年度の京都府総合防災訓練が、京丹後市を会場として実施されます。



写真は、平成十七年八月に実施した「京丹後市総合防災訓練」

◎「自主防災組織等」支援【消防費】 114万円

災害に強いまちづくりを推進するため、自主防災組織の防災資機材整備などに対して補助金を交付するとともに、自主防災・防災リーダー養成講座も開設します。

○「市民協働のまちづくり事業」補助金【総務費】 1,800万円

各市民局に予算を配当し、市民協働のまちづくりの推進と地域活性化を支援します。



市民協働のまちづくりの取り組みの一つとして開催している「市民懇談会」

●「国際交流協会」設立【総務費】 18万円

国際観光の推進・外国からの観光客の受け入れ、在住外国人のサポートなどを推進するため国際交流協会を設立します。

Ⅵ 災害に強く快適で暮らしやすい うるおい安全都市

○「都市計画マスタープラン」策定【土木費】 752万円

京丹後市発展の基盤となる都市計画確立のため、そのマスタープランを策定します。(平成16年度～19年度の4か年事業の最終年度)

○「道路改良」事業【土木費】 7億16万円

道路改良 (24路線) 1億7,926万円
辺地対策道路 (3路線) 9,553万円
過疎対策道路 (7路線) 8,837万円
地方道路臨時交付金事業 (6路線) 3億3,700万円

●「網野駅バス停留所」整備【総務費】 100万円

丹後海陸交通㈱の低額バス実証運行の利用促進事業の支援として、網野駅へのオリジナルデザインのバス停留所整備に対して補助金を交付します。



より気楽に、より便利に利用していただける、上限200円バスの実証運行を昨年10月に開始しました

◎「郷土資料館日曜日」開館【教育費】 54万円

利用者の利便向上と資料館の有効活用をめざし、平成19年度から日曜日も開館します。
※週2日(火・土)→週3日(火・土・日)



失われていく民俗資料を多数保存・展示している網野郷土資料館

Ⅴ 共に築き、結び合う パートナースhip都市

○「地域振興交付金」【総務費】 1億2,263万円

住みよい地域社会の実現へ向けて、各区へ交付金を交付し自治会活動を支援します。

●「市民力活性化推進プロジェクト」補助金【総務費】 1,500万円

補助金全体をスリム化しつつ、広く市民の潜在力や市民活動の活性化・地域の活性化に貢献する活動に対して、まちづくり推進活動支援補助金を改変・拡充し、幅広い活動を支援します。

●「地域まちづくり」支援【総務費】 200万円

地区などの自発的な地域づくりを支援するため、「地域まちづくり計画」を策定するための経費を助成します。

◎「まちづくり基本条例」制定【総務費】 42万円

市民協働のまちづくりを推進するため、市民団体などと意見交換しながら条例制定をめざします。

◎「地域まちづくり協議会」運営【総務費】 313万円

地域振興協議会を「地域まちづくり協議会」として改称し、市民協働による地域の振興・発展のため、地域づくりの核となる組織として新たに運営します。



昨年九月から十月にかけて各町地域振興協議会から市長へ「提言書」をいただきました

水生生物の生育環境の保全、確保



ため池の水際の植生は、生物の生息・生育環境や景観の形成などに重要な役割を果たしており、現況の多様な植生を保全していきます

- **ため池整備における方策**
 - ◇ため池とその周りを移動する小動物のためのスロープ確保
 - ◇ため池に下りる小動物用の進入路の確保
- **歴史・文化における方策**
 - ◇地域の歴史的行事・祭りなどの文化に適應する事業計画づくり
- **教育における方策**
 - ◇児童の棚田、赤米の田植え、稲刈り体験
 - ◇生き物調査、魚などの引越体験
 - ◇高齢者のかたに対する方策
 - ◇農地への進入路の緩勾配化
 - ◇水路などへの落下防止

具体的な環境配慮方策

- **ほ場整備における方策**
 - ◇アベサンショウウオの生息地など、多様な希少生物のための林地と水路との連続性を確保
 - ◇ドジョウ、メダカなどの魚類の水路における産卵場所、魚道の確保
- **小動物の落下防止のための水路のスロープ設置**
 - ◇ほ場法面の在来植物の保全
 - ◇生物の生息場所の確保のための水田の冬季湛水化

- **水路整備における方策**
 - ◇魚類などの休息・避難場所の確保のための緩流速場所の設置
 - ◇魚類などの生息場所の確保のための護岸工法の選定
 - ◇サンショウウオ、カエルなどの水路と林地への容易な移動経路の確保
 - ◇小動物の落下防止のためのスロープ確保
- **歴史・文化における方策**
 - ◇地域の歴史的行事・祭りなどの文化に適應する事業計画づくり
- **教育における方策**
 - ◇児童の棚田、赤米の田植え、稲刈り体験
 - ◇生き物調査、魚などの引越体験
 - ◇高齢者のかたに対する方策
 - ◇農地への進入路の緩勾配化
 - ◇水路などへの落下防止

京丹後の豊かで美しい自然を活かす 農村整備に「環境との調和」を最重視 「京丹後市農村環境計画」を策定

市では、新市誕生後、旧六町において国の事業採択を受けた農業農村整備事業を引き継ぎ、旧六町の「農村環境計画」および「農村環境整備マスタープラン」に基づいて「環境に配慮」した整備を行ってきましたが、これらの事業がおおむね完了します。

そのような中、新食料・農業・農村基本法、土地改良法における「環境との調和への配慮」の基本原則を尊重しつつ、市の農村地域の特性に応じた多様な環境に配慮する指針とする「京丹後市農村環境計画」をこのたび新たに策定しました。

同計画の策定にあたっては、学識経験者のかたなど八人で構成する「策定委員会」、また地域の代表者のかた十二人で構成する「策定協議会」の審議に加え、住民アンケートによる環境意識調査・資源調査など、さまざまな角度からの意見を反映しています。

今後、市が新規に行う農業農村整備事業において、自然景観や生物の生態系、歴史・文化、教育、高齢者のかたなど、「環境との調和」への配慮などを最重要視することを観点の一つとして明確にすることもにより、農業農村整備の分野においても、「環境との調和」を強力に推進し、暮らしの中でのちが輝く「環境循環都市」をめざしていきます。

計画方針

同計画では、農村地域の環境保全を図

るため、地域の特性である豊かで美しい山・里・海の連続性、川・海の汚染防止、市民のみなさんとの交流・協働のまちづくりを重視し、次の三点を基本的な考え方としています。

名勝地を有する海岸線、良好な水質を有する河川、ブナ林などを有する豊かな山林をネットワークにより保全します。

美しく豊かな里山・里地の持続と、化学合成肥料・農業の削減、有機農法の施用により環境にやさしい農業を推進し、自然環境のさらなる質の向上を図ります。

農村人口の減少、高齢化の進行に対応するため、集落営農の確立、担い手育成・確保を推進するとともに、非農家やNPO法人、地元企業などの参画を図り、地域ぐるみによる多様な農業・農村の環境保全を推進します。

地域特性に応じた整備を推進

市域を自然環境・社会環境・生産環境などの地域特性に応じて平地・里山・山地の三ゾーンに区分し、それぞれに応じた整備をします。

■ 平地ゾーン

生物の移動経路の分断や生息・生育環境が縮小・消失しないよう生物

のネットワークを確保します。

■ 里山ゾーン

里山ゾーンに多い畑地、谷地田に生息する生物の生息空間を確保するため、化学合成肥料・農業の削減、有機肥料の施用などにより環境負荷の低減を図ります。また、地域ぐるみによる農地の耕作放棄地、獣害対策のための間伐・下草刈を行い、適切な里山の利用・管理を行います。

■ 山地ゾーン

豊かなブナ林などから生まれる清流の保全、人工林の適切な管理により濁水の防止などに努めることをはじめ、山地・平地・海までの連続性を考慮した整備を行います。また、整備により発生する木材資源・間伐材の有効利用により循環型保全をめざします。

アベサンショウウオが生息する林縁と水路の連続性への配慮



アベサンショウウオは、林縁と水路が連続しているところに生息しており、生物の多様な生息・生育空間を確保するために、河川と水路の連続性、隣接する樹林地との連続性の確保を行います

「作る農業」から「売れる農業・儲（もう）かる農業」へ

京丹後アグリビジネススクールを開講

「作る農業」から「売れる農業・儲（もう）かる農業」への意識転換を図り、農業分野での高付加価値型ビジネスの担い手を育てる「京丹後アグリビジネススクール」を開講し、定員二十人を大幅に超える三十九人の受講者が、消費者ニーズの把握や経営改善、商品のアピールの手法などを熱心に学びました。

同スクールは、市と京都府、京都農業協同組合などの関係機関で構成する「京丹後アグリビジネス推進協議会」が主催。安全で安心なものを安定的に供給できる「売れる商品づくり」をはじめ、販路開拓に必要なノウハウや、営業活動に必要な技術の取得を促進するとともに、農業と加工・流通・販売・観光・交流などを組みあわせた農業分野のニュービジネスを実践・けん引する人材の育成を図ろうと初めて開講したものです。

二月二十一日の「開講式」では、中山市長が「観光産業と連携した地産地消や特産品開発など、農業にはさまざまな広がりや可能性があります。当講座を通して新しい一歩へのきつかけや手がかりを見つけられ、地域農業の発展、関連産業創出のリーダーとして活躍されることを期待しています」とあいさつし、早速第一講座をはじめました。

この日は、京都大学フィールド科学教育研究センターの西村和雄講師が「安全・安心で美味しい農産物生産」と題し、有機農業について講義。色をはじめ、葉や根の出方による本物の野菜の見分け方や、全国各地の有機栽培で育てた野菜を紹介するとともに、「有機栽培は、肥料などにより過保護に育てないため、同じ環境であってもそれぞれ違う。作物は人を見て育つ」とわかりやすく解説され、受講者は熱心に聞き入りました。

同スクールは、三月末までに「売れる商品づくり」、「地産地消と観光」、「ホームページの活用」、「接遇の基本」などについて五回の基礎講座を開き、また十九年度には、修了者のかたを対象にした応用編を開催し、農業技術とともにさまざまな経営感覚や営業方法を習得していただくことにしています。



西村和雄講師の講義を熱心に聞き入る受講者のみなさん

『飲酒運転しま宣言』

市内百十五事業所が「飲酒運転撲滅宣言」

飲酒運転ゼロを組織をあげて取り組もうと、京丹後警察署と京丹後交通安全協会安全運転管理者部会が、市内の百十五事業所を「飲酒運転撲滅宣言事業所」に指定し、三月一日に「指定書交付式」が開かれ、各事業所の代表者が一丸となって飲酒運転を撲滅することを誓いました。

指定されたのは、市内の安全運転管理事業所三百八事業所のうち、同取り組みに賛同した百十五事業所で、従業員数は約五千七百人。各事業者の従業員一人ひとりが「飲酒運転をしない、させない」などの宣言書を提出するとともに、「飲酒運転しま宣言書」のステッカーを全従業員の車に貼り、さら



全事業所を代表し、3事業所に「飲酒運転撲滅宣言事業所」の指定書が、島本京丹後警察署長（左）から手渡されました



指定事業所の全従業員の車に貼る「飲酒運転しま宣言書」のステッカー

に意識を高め、ていくこととされています。交付式では、平野卓京丹後交通安全協会安全運転管理者部会長が「この取り組みの輪が全事業所に広がることに、さらに京都府内、全国へと波及することを期待しています」とあいさつ。

続いて、全事業所を代表し、丹後物流工業組合中央加工場など三事業所が、「全従業員が交通法規を遵守するモデル事業所として、飲酒運転追放をはじめとする交通マナーを守った安全運転をすることで、交通事故防止活動を積極的に推進し、地域の模範となる事業所になります」と宣言書を読み上げ、島本京丹後警察署長から指定書が手渡されました。

その後、参加者は、京丹後警察署員から交通安全の講話を聞くとともに、酒酔い運転体験ゴーグルをつけての歩行体験などにより、飲酒運転根絶に気を引き締めました。

丹後大震災から80年を迎え 万が一の災害に備え

災害ボランティア研修



二人一組になり、三角巾を使った「救急法」を実習

丹後大震災から八十年を迎えるにあたり、万が一の災害にもあわてず救援ボランティア活動が行える体制づくりをめざした「災害ボランティア研修講座」が、三月三日に峰山総合福祉センターで開かれ、約百三十人の参加者が、災害時に役立つ炊飯方法や救急法などを熱心に学びました。

同講座は、昨年十一月に各町の枠を超え新たな連携をめざし発足した「京丹後市ボランティア連絡会（福永孝宣会長）」と京丹後市社会福祉協議会が共催で開催。



午後からは、昨年九月に発足した「福知山市災害ボランティアネットワーク連絡会」が、同会設立の経過や活動内容を報告。また、市職員が、昨年度策定した「京丹後市地域防災計画」や災害時における要援護者のかたへの支援などについて説明を行い、平常時から各地域での声かけや連携体制づくりへの協力を呼びかけました。

参加者は、「今日覚えたことを近所のかたに伝えたい」、「聞くだけでなく実際に行うことで、自分自身のプラスになった」、「たいへん有意義で、もっと多くのかたに知っていただくため、このような講座を何度も開催してほしい」と感想を話されるなど、防災、安全への意識を高めました。

地域でできる地球温暖化防止を考える

環境先進地・丹後を広くアピール

丹後環境シンポジウム

丹後二市二町で構成する丹後地区広域市町村圏事務組合（理事長・中山京丹後市長）が、丹後地域でできる地球温暖化の取り組みについて考える「丹後環境シンポジウム」を三月四日、峰山総合福祉センターで開き、約百八十人の参加者が、地球温暖化防止の方向性を探りました。

同シンポジウムは、「丹後地域における地球温暖化防止の未来づくり」をテーマに、地球温暖化問題に対し、住民のみなさんに認識を深めていただくとともに、「環境先進地・丹後」を広く発信していくため、二〇〇八年のサミット（主要国首脳会議）に先駆けて開催が見込まれる「G8環境大臣会合」を丹後へ誘致する運動の一環として開催しました。

シンポジウムでは、京都府立大学人間環境学部の宗田好史助教授が「丹後地域と地球温暖化防止と地域資源を活かした温暖化対策」と題して基調講演。「地球温暖化防止のため、それぞれがライフスタイルを見直すことが大切であり、そのためにはできるだけ多くのかたが、温暖化防止活動や生活習慣を体験できる実践の場の確保が必要。丹後の豊かな自然を共有する中で、自然環境の大切さを、ぜひ全国へ、そして世界へ訴えかけてほしい」と話されました。



環境学習の成果を発表を発表する 宮津市立由良小学校の5年生

活動環境大臣表彰「彰」を受賞された宮津市立由良小学校の五年生十四人が、里山保全体験や木質ペレットの製造などに取り組んだ環境学習の成果を発表。「車のアイドリングはしないでください。水の出しっぱなし、電気の使い過ぎに注意してください」など、『大人のみなさんも温暖化を防ぐ取り組みに協力してください』とメッセージを読み上げました。

また、「温暖化防止！丹後地域で何ができるか」をテーマに、温暖化防止や環境保全活動を行われている丹後地域の団体、事業所などの代表四人がパネルディスカッションを行い、それぞれが取り組まれている活動内容の報告とともに、次代を担う子どもたちに伝えていかなくはならないことについて活発な意見が交わされ、参加者は認識を新たにしました。

美しい日本の歴史的風土準100選に選定

丹後町「袖志の棚田と丹後松島」



袖志の棚田

丹後町の「袖志の棚田と丹後松島」が、古都保存法施行四十周年を記念し、次世代に継承すべき美しい日本の歴史的風土が良好に残されている地域として「美しい日本の歴史的風土準一〇〇選」に選定されました。

同選定は、歴史的建造物や史跡などが周囲の自然的環境と一体となった「歴史的風土」を後世に伝えるべく、厳しい行為制限や土地買入れなどによる保存措置などの施策を盛り込んだ「古都保全法（昭和四十一年制定）」の施行四十周年を記念し、「美しい日本の歴史的風土一〇〇選実行委員会」が全国から公募。全国から六百九十八件の応募の中から、「一〇〇選」およびそれに準ずる「準一〇〇選」が選ばれました。

「丹後松島」は、京都府の「レッドデータブック」に選定されるとともに、「京都百景」にも選ばれ、小島の多くは、砂浜でつながる陸繋島で、平・上野・久僧浜は、美しい海水浴場としてにぎわっています。

また、この地域の海岸線は、海岸段丘が多く、段丘の上は、少し傾斜した土地になっており、古くから段々畑や棚田として利用されてきました。その中でも、一二畝の面積に約四〇〇枚もの水田がある袖志の千枚田は見事な光景で、「日本棚田一〇〇選」にも選ばれています。

～市民による市民のためのまちづくりをめざして～

「京丹後市まちづくり基本条例の制定をすすめる会」便り

【第6号】

「京丹後市まちづくり基本条例の制定をすすめる会」では、会全体での議論はもちろん、各団体のかたとの意見交換も行いながら、条例の議論を十分行っていきましたが、その場に提案する条例素案を一条ずつくり上げるため、二月二十八日に条文作成委員会（会長以下五人で構成）を開催しました。

委員会では、まず、条例の「目的」をどのように規定するかという議論からはじめました。

「目的」は、条例に規定している基本事項とともに、この条例では何をめざしているのかを簡潔に示すために規定されるもので、「自治の実現を図る」タイプと「まちの実現を図る」タイプに大別できます。

「自治の実現を図る」ものには、「自立した自治体」にふさわしい自治の実現を図る（東京都杉並区）、「地方自治の本旨に基づく市民自治の実現を図る（兵庫県伊丹市）」といった事例があります。

一方で、「まちの実現を図る」ものには、「みんなが住みよいまちの実現を図る（北海道美瑛町）」、「個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を図る（兵庫県宝塚市）」といった事例があります。

これらのことを踏まえ、委員会では、「京丹後市が合併したまちであるということに視点を置き、まちづくりをめざすことがよいのではないか、そのような思いから、自治基本条例という名称ではなく、『まちづくり基本条例』という名称にしたという経過がある」との意見や、一方で「二セコ町はまちづくり基本条例であるが、この条例の目的は自治の実現を図ることとしている。」

「京丹後市まちづくり基本条例」に関するアンケートのご協力に対するお礼

2月に「『京丹後市まちづくり基本条例』に関するアンケート」を、無作為抽出した3,200人のかたを対象に実施しましたところ、1,343人（約42.0%）のかたからご回答をいただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの結果については、集計ができ次第、公表させていただきますとともに、条例に反映させていきたいと思っています。

（参考引用文献／「協働社会をつくる条例」 松下啓一著 株式会社きょうたんご発行）

まちづくりという名称は、条例全体を捉えたものと考え、京丹後市では行政に頼るばかりではなく、住民自治ということが根付いていくことが大切ではないか」という意見がありました。

議論の結果としては、合併後のまちづくりも住民自治も大切なことであるということから、どちらもめざすことでよいということを確認し、条文化することとなりました。

現段階としては、このように、条文を一つづついねいに議論しながら、素案をつくり上げていくところですが、今後、できるだけ早く市民のみなさんにこの素案を公表し、さまざまなご意見をお聞きしたいと考えています。

「2007日本ジュニア室内陸上競技」大会 男子小学4×80mタイムレースで見事優勝 大宮陸上チーム

大下都賀砂・滝野天琴さん・谷口信也さん・正木勇志さん・松本大輝さん



（写真左から）伊東高英市体育協会副会長・正木勇志さん・谷口信也さん・滝野天琴さん・松本大輝さん・大下都賀砂さん・指導者の谷口正郎さん

「二〇〇七日本ジュニア室内陸上競技大会（二月十一日）の男子小学四×八〇mタイムレースで、「大宮陸上」チームが、四三秒三五のタイムで見事優勝に輝きました。

メンバーは、大宮第一小学校六年生の大下都賀砂さん・滝野天琴さん・谷口信也さん・正木勇志さん・松本大輝さんの五人。

メンバーの一人・大下さんは、昨年六月に右足の肉離れをおこしたものの、メンバー全員で支えあい、十月に行われた京都府小学生陸上競技大会で標準タイム（五四秒一四）を突破し、出場権を獲得。昨年の「大宮第一小学校」チームに続き、栄冠に輝きました。

メンバーは、二月二十三日に引野教育長に優勝報告に訪れ、正木勇志さんは「三位以内に入ることができればと思っていたのですが、優勝できるとうれし」と笑顔で話してくれました。

丹後大震災から八十年

教訓を風化させず 今に伝える

丹後震災記念展

丹後一円を襲った「丹後大震災」から今年で八十年を迎えました。震災の記憶は、遠いものになってきていますが、自然の力を改めて知り、防災について今一度考えていただく機会として、毎年、三月七日の「震災記念日」にあわせて「丹後震災記念展」を開催しています。



丹後大震災で倒壊した「峰山公会堂」

昭和二年三月七日午後六時二十七分、網野町郷付近を震源にしたマグニチュード七・三、震度六相当の北丹後地震（丹後大震災）が発生し、被害は丹後一円におよびました。

京丹後市域全体の住宅被害は、全壊四、三八四軒、半壊四、三八四軒、全焼六、七一九軒、半焼七四軒。また、亡くなら



貴重な資料の数々を展示した「丹後震災記念展」

れたかたは二、四四〇人、重傷は一、〇五三人ものかたが犠牲となりました。

（奥丹後震災誌から）

昭和四十七年からはじめた「丹後震災記念展」は、今年で三十五回目を迎え、「大震災が残したもの」をテーマに三月三日から七日までの五日間、丹後震災記念館（峰山町室）で開催し、遠方からも多くのかたが訪れるなど、災害の恐ろしさを改めて感じていました。

会場には、災害を通じて得た教訓を風化させることなく、「あの日を忘れず、あの日から学んでいこう」と、地震発生時刻を指したまま止まった柱時計や、焼けこげた反物、溶けた銅銭をはじめ、焼け野原となった峰山町の中心部などの写真パネル六十四点、当時の新聞記事三十六点など貴重な資料を多数展示。また、住民のみなさんから聞き取りで当時の町並を再現した地図とともに、震災で亡く

なられたかたを追悼する市内に残る慰霊塔十八か所の写真パネルを今回初めて展示し、来館者は当時を振り返り、資料の一つひとつを感慨深く見入っていました。

加えて、八十年の節目の年を迎え、関連企画展として、丹後古代の里資料館（丹後町宮）では「震災を忘れない郷土史家永浜宇平の見た丹後震災」を一月三十一日から四月十五日まで開催し、旧三重村（現大宮町）出身の故永浜宇平さんが編さんした「丹後地震誌」をはじめとする関係資料を展示。

また、二月二十四日から三月三十一日まで、網野郷土資料館（網野町木津）では「震災直後の島津村く神戸婦人同済会の活動」と題して、同会から島津尋常高等小学校へ寄贈された救援活動写真などを展示し、来館者は防災への思いを新たにしました。

民間木造住宅の耐震診断士派遣事業

平成19年度も実施します

昭和56年（建築基準法改正前）以前に建築された木造住宅にお住まいのかたで、耐震診断を希望されるかたは、自己負担2,000円で木造住宅耐震診断士を派遣する事業を、平成18年度からはじめています。

万が一のときに備え、ぜひわが家の「耐震性」を点検しましょう。

木造住宅の耐震診断についてのご相談は、都市計画・建築住宅課（☎69-0530）へお問い合わせください。

市の将来を担う青少年が 国際的な視野を広めた 貴重な体験・感動を報告



市では、国際的視野や国際協調の精神を身につけてもらうとともに、京丹後市の将来のまちづくりを担う人材育成を目的に、「平成18年度京丹後市海外派遣事業」として、昨年8月17日から22日の日程で、中国に「青少年中国交流団」を派遣しました。

派遣したのは、公募による市内の中学生18人。交流団は、市が友好都市提携を結ぶ中国・亳州市と、北京市を訪問し、亳州市第一中学校の生徒と文化・スポーツ交流を行うとともに、デイスティとして生徒宅を訪問し、生活文化などについても学ぶなど、数々の貴重な体験をしました。

3月9日には、峰山地域公民館（峰山町杉谷）で「報告会」を開き、交流団を代表し6人が研修活動を通して習得した成果などについてレポート発表を行いました。

峰山中学校二年（現三年生） 金子 佳奈さん
私が「青少年中国交流団」に応募した動機は、三つあります。
一つ目は「今は転校してしまつた中国の友達に国について知れたかったから」、二つ目は「私に足りないものをみつけてこれからの生活に活かそうと思ったから」、三つ目は「チャレンジしてみようと思ったから」です。
何度か事前研修を重ねるうちに、「しつかりと日本のよさを伝えよう」、「この目で中国を見てくるぞ」という気持ちが高まってきました。
亳州市第一中学校に着くまでは、とてもドキドキしていました。中学校に着くと、建物の大きさに驚きましたが、熱烈的歓迎にも驚きました。
楽しみにしていた「交流会」では、マイクを持った女の子が英語で司会をしてくれました。「中国は英語の教育に力を入れている」と聞いていましたが、あまりの堂々とした英語にあっけにとられてしまいました。それから、踊ったり、歌ったりと堂々とした発表が続く、恥ずかしさなんて感じなくて、私は「すごいなあ」と思い、ため息が出るほどでした。
交流会が進んでいくうちに、私の緊張はいつの間にかほぐれて笑顔が増えていきました。
外へ出ると、さっそく名札を見た女の子が話しかけてくれました。デイスティ先の学生・ザオさん

んです。私は、慣れない本格的な英語に緊張しながら、自己紹介をしました。ザオさんは、学校について詳しく教えてくれましたが、早くて、教科書に載っていることしかわからない私にとってはきつく、何度も聞き返したりしましたが、とてもみじめでした。するとザオさんは、ジェスチャーに、私の知っていそうな単語を選んでさらにゆっくり話してくれました。あのときの、うれしくて、心が温まるような気持ちを私は忘れません。
亳州市の学生と交流して思ったこと、学んだことは「英語の必要性」です。私はもつとたくさんの単語や表現方法を知りたいです。今回、英語がわからなくて悲しかったことをバネにがんばって勉強したいです。また、デイスティという貴重な体験をさせていただき、文化を深く知ることができました。
私は、「青少年中国交流団」に参加させていただき、本当によかったと感謝しています。
言葉が通じない場所で、英語の必要性を身をもって体感しました。また、すばらしい建造物や、雄大な自然をみて、気持ちが大きく持てるようになりました。
これからつらいことがあると思いますが、あのときにみた景色を思い出して、いろいろなことにチャレンジし、がんばっていききたいです。

平成十八年度京丹後市青少年海外派遣事業

「青少年中国交流団」報告会

大人の仲間入り 気持ちも新た



晴れやかな新成人を祝福

京丹後市成人式

暖かさを増し、春を肌で感じる三月十八日、「平成十九年京丹後市成人式」を京都府丹後文化会館（峰山町杉谷）で開催し、りりしいはかま姿やあでやかな晴れ着に身を包んだ新成人約七百人が大人の自覚を新たにしました。
今年の招待者は、昭和六十一年四月二日から昭和六十二年四月一日生まれの八百六十五人。会場では、色とりどりの振り袖姿の新成人が、久しぶりの再会を喜びあいながら写真撮影やあなど、華やかな雰囲気にも包まれていました。
式典は、新たな門出を祝い、飛龍天衆（ひりゅうたかしゅう）の勇壮な和太鼓演奏と、峰山よさこい連「空（くう）」のみなさんによる華麗なステージで開幕。
中山市長が「みなさんには無限の可能性があります。限らない可能性を信じて、いろいろなことに挑戦し、勇気を持って積極的に自分の人生を耕し、切り拓いてほしいと思います。何事も懸命に、無我夢中に、そして継続的に取り組む、努力する、こういう姿勢が、いつかきつということを呼び込みます。そして、何かに一生懸命であれば、一生懸命に取り組めることへの『感謝』の気持ちがわいてきま

す。一生懸命やった、一生懸命やれた、ありがとうございます。それがひよつとしたら一番大事だと思っています。みなさんは、新成人として歩みだしたばかりですが、これから君たちの時代です。京丹後市は、そして二十一世紀・新千年紀は、君たちとともに歩み始めています。君たちの思いや希望を新しい時代に思い切り熱くぶつけ、先人への感謝をはじめ、多くの感謝の気持ちをもちながら、その上に君たちの時代を創っていただく。ともに新しい時代のたわわな、本当の豊かさに向け歩み続けましょう」と式辞。また、来賓からはお祝いと温かい激励の言葉が贈られました。
その後、新成人を代表して、澤尚徳さん（網野町網野）と水口沙織さん（峰山町菅）が、「二十歳の主張」と題して、新たな人生のスタートラインに立ち、社会人となる決意を力強く宣言。
また、式典後には、旧町ごとに記念写真を撮るなど、にぎやかに思い出話に花を咲かせ、節目の日を存分に喜びあいました。



笑顔いっぱい
節目の日を喜びあいました

第1回丹後の四季を撮ろう「フォトコンテスト」入選作品決定

京丹後市は、美しい自然環境景観、先人が築きあげた文化財など、ふんだんな魅力にあふれています。市では、そのような魅力を再認識していただくとともに、広く発信しようと、「新・丹後王国“京丹後”」をテーマに「第1回丹後の四季を撮ろう『フォトコンテスト』」を実施。

結果、市内の自然や催し、祭りなど四季の風物詩をとらえたすばらしい129点（71人）のご応募をいただき、このたび入選作品が決定しました。

■京丹後市長賞

「冬、朝のひとしごと」 清水 まさ子さん（久美浜町）

■京都府知事賞

「桃の里」 川見 久雄さん（網野町）

■（社）京都府観光連盟会長賞

「晩 夏」 荻野 博さん（峰山町）

■優秀賞（5点）

（順不同・敬称略）

題 名	受賞者	住 所
金刀比羅神社	前平 照雄	豊岡市
光彩	川戸 勝美	峰山町
新緑の滝	大町 誠一	滋賀県野洲市
筏のある風景（牡蠣筏）	田中 正治	久美浜町
幻想のブナ林	坪倉 義英	弥栄町

■入賞（15点）

（順不同・敬称略）

題 名	受賞者	住 所
黄葉狩り	木下 守	網野町
盛夏・早朝「せせらぎ」の竹	平田 憲広	東京都板橋区
光と影	岡田 良弘	峰山町
春につつまれて	上山 幸司	宮津市
丹後立岩	北垣 正則	弥栄町
間人蟹競り市	増田 英男	弥栄町
吹雪の漁港	白杉紀久雄	大宮町
落日	白杉紀久雄	大宮町
蒼い海	篠田 淳子	久美浜町
豊作の丘	谷口 政彦	宮津市
ユウスゲの咲くころ	大地洋次郎	福知山市
サーファーと海	西村喜與司	与謝野町
秋祭	奥村 浩市	網野町
冬の久美浜湾	家城安久己	久美浜町
夕景	近藤 長衛	峰山町

地上デジタルテレビ放送について

今回は、地上デジタルテレビ放送受信のため、受信方法ごとの改修内容についてお知らせします。

受信方法	屋外設備	宅内配線	テレビ受信機
戸別受信	従来のUHFアンテナで、通常は受信できます（交換が必要な場合もあります）	宅内に配線されている線の種類によって改修が必要ですが、基本的にはこれまでの同軸ケーブルで対応可能です（フィーダー線は利用できません）	現在お持ちのアナログテレビに、デジタルチューナーを取りつけるか、地上デジタル放送対応テレビに買い替えることにより受信が可能です
共同受信	組合施設（受信点設備など）の改修が必要です		

テレビ受信機について

市内でのデジタル放送は、平成19年中に開始されますが、平成23年7月24日のデジタル完全移行までは、従来のアナログテレビで、テレビ放送が受信できます。

計画的に、テレビの買い換えやデジタルチューナーの取り付けなどのデジタル放送対策を行ってください。

※次回は、市が計画しているブロードバンドネットワーク整備についてお知らせします。

悪質商法にご注意ください

テレビ調査人や工事人を名乗って不正請求を行ったり、郵便などによる振り込み詐欺（架空請求）を行ったりする事例がおきています。地上デジタル放送に関する誤った情報や不十分な情報にもとづいて、関連商品・サービスを売りつける悪質商法にご注意ください。

平成19年 2007年	平成20年 2008年	平成21年 2009年	平成22年 2010年	平成23年 2011年
アナログ放送				7/24
デジタル放送開始				平成19年 峰山中継局から 送信開始

元小学校長

故大垣博さん（久美浜町市場）

叙位 正六位 受章



故大垣 博さん

元小学校長の故大垣博さん（久美浜町市場）が、「正六位」に叙され、このたび吉岡京都府丹後教育局長から遺族のかたに位記が伝達されました。大垣さんは、昭和十二年三月の京都市仁和尋常高等小学校訓導を振り出しに、三十八年間の永きにわたり、教育現場において優れた教育実践を積み、大きな足跡を残されました。特に、昭和四十一年からは小学校長として、教育向上とあわせ、「学力向上は、健康な体力づくりから」、「未来に挑戦」を信条とし、児童の体力と精神力の向上に尽力。また、学校の状況や児童の様子を積極的に公開することにより、地域や保護者のかたに対して「開かれた学校づくり」に精力的に取り組まれるなど、教育に対する真摯な姿は児童から親しまれるとともに、保護者のかたや地域住民のみなさんからも厚い信望を得られました。加えて、昭和四十四年四月から十年間は久美浜町社会教育委員を、また昭和四十五年には川上地区区長会長、昭和五十四年には久美浜町区長会副会長を歴任されるなど、学校教育のみならず地域の振興・発展にも多大なご貢献をいただき、その功績が高く評価され受章されたものです。

元丹後町議会議員

米田光治さん（丹後町徳光）

旭日単光章 受章



米田 光治さん

元丹後町議会議員の米田光治さん（丹後町徳光）が、「旭日単光章」を受章され、このたび奥田京都府丹後広域振興局長から伝達されました。米田さんは、昭和五十四年四月に丹後町議会議員に初当選され、以来平成三年四月までの連続三期十二年の永きにわたり、地方自治の発展に大きな足跡を残されました。その間、産業常任委員会委員長、産業建設常任委員会委員長、丹後町役場庁舎建設に関する調査特別委員会委員長などの要職を歴任。特に、福祉向上の必要を説き、保健センターおよび丹後町国民健康保険直営間人診療所の開設、また丹後広域消防組合の分遣所設置や道路交通網、ほ場整備、丹後町役場庁舎建設などに関しても、常に地域住民の要望をきめ細かく聞き取り、その完成に大きく貢献されました。また、地域の信望を得、昭和四十八年四月から昭和五十二年三月まで徳光区区長を、平成五年四月から平成六年三月までは丹後町老人会長を務められるなど、地域振興・発展にも多大なご尽力をいただき、それらの功績が顕著であり受章されたものです。

法務大臣表彰を受賞

保護司 小栗徳宗さん（峰山町菅）
北島顯経さん（大宮町善王寺）



北島 顯経さん

北島さんは、青少年の自立更生に献身的に取り組まれるとともに、少子高齢社会など今日的な福祉課題に向け、保護司会をリードされ、地域民生の安定と社会福祉の向上にご尽力をいただき、その功績が高く評価され受賞されました。



小栗 徳宗さん

小栗さんは、社会奉仕の精神のもとに更生保護の任務に精励され、ともに、世論啓発を通じた地域社会の浄化や後進の指導・育成に努められ、保護司会組織の推進にも大きく貢献されるなど、その功績が高く評価され受賞されました。

保護司の小栗徳宗さん（峰山町菅）と北島顯経さん（大宮町善王寺）が、永年にわたる地域更正保護事業への功績を讃え、「平成十八年度京都府更生保護大会」において、法務大臣表彰を受賞されました。

公共交通に
ふれる

バス絵本と200円バスが運ぶ園児の笑顔



市では、公共交通機関の利用促進を推進するため、市内すべての幼稚園・保育所に、田舎の路線バスを題材にした絵本「ピン・ポン・バス」を配布しました。

この取り組みは、園児などへの読み聞かせを通して、バスや鉄道が身近で、楽しい乗り物であることを感じていただき、実際に公共交通を利用する際の事前学習に役立ててもらおうと行ったものです。

公共マナーの事前学習、情操教育
網野幼稚園

絵本「ピン・ポン・バス」



田舎道を走るバスの発車から終着までのバスの旅が、
さまざまな人間模様を通し描かれた心温まる絵本

上限200円バスの
得 実証運行により
従来の運賃が
格安になりました

(例) 従来の間人～網野高等学校間の運賃480円、さらには間人～峰山高等学校間の運賃700円が、それぞれ運賃200円になり、通学に、通院にたいへん便利です。

回数券の購入によりさらにお安くご利用ください。丹海バス車内でも購入できます。

お得な回数券（区間運賃200円の場合）をご利用ください

回数券種別	枚数	運賃額	実質1回乗車運賃
普通回数券	11枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質182円
通学回数券	13枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質154円
昼間回数券	13枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質154円

※通学回数券は、学生証・通学証明などの提示が必要です。

※昼間回数券は、10:00～16:00の降車にご利用いただけます。

※区間運賃200円の場合、峰山・網野・丹後・弥栄の市民局と網野駅でもお買い求めいただけます。（市民局では、領収書は発行できません）

※200円回数券のバス車内販売も行っています。

国との交流

国土交通省近畿運輸局自動車交通部長が来庁



(写真奥・左から) 国土交通省近畿運輸局の五十嵐自動車交通部長、足立専門官、京都運輸支局の西川専門官

国土交通省近畿運輸局の五十嵐自動車交通部長と足立専門官、京都運輸支局の西川専門官が、3月9日に市役所へ来庁され、上限200円バス実証運行の取り組み状況などについて、意見を交換しました。

五十嵐自動車交通部長は、全国的にバス路線の縮小・廃止が相次ぐ中、当市が住民の立場に立って積極的に施策を展開していることを高く評価していただき、全国の自治体の注目となっている点について話されました。

また、国と地方自治体との貴重な意見交換の場となり、「乗りたい、使いたい公共交通」の実現へ向け、さらに行政、運行事業者、市民、企業が一緒になって、努力していくことを伝えました。

バス・鉄道・航空を
もっと身近な乗り物へ

市では、バスや鉄道などの公共交通について、市民のみなさんがより気軽に、より便利に利用していただける新公共交通システムの構築について、検討を進め、昨年10月から丹後海陸交通株式会社（丹海バス）との協働により、上限200円バスの実証運行に取り組んでいます。

開始から4か月が経過した上限200円バスの利用者数は、前年対比約140%となり、この暖冬を考慮しても上々の結果（乗車人員でおよそ12,800人増）となっています。

今後も、公共交通が市民のみなさんにとって、もっと便利で、もっと身近な乗り物として、親しみ、愛され、ご利用いただけるよう、さまざまな施策を講じていきますので、市民のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

組織の強化

市の公共交通の意思決定最高機関の組織をさらに強化



名称を「京丹後市地域公共交通会議」に改め組織を強化

市では、平成17年12月6日に公共交通の許認可手続きにおける優遇メリットを得るため、当時、全国初となる「京丹後市地域交通会議」（会長・中山京丹後市長）を設立しました。

そして今回、名称を「京丹後市地域公共交通会議」に改め、さらなる組織強化を図っていくことにしました。

これまで、乗合バス事業者としての委員は、丹後海陸交通（株）のみでしたが、新たに全但バス（株）を委員に迎え、さらに鉄道事業者として北近畿タンゴ鉄道（株）をオブザーバーとして参加していただくことにしました。これにより、豊岡方面などを含めた広域的な議論が行いやすくなりました。

わかりやすく
使いやすく上限200円バスに乗って観光スポットまで
『200円バスで行く京丹後の旅』を
市のホームページに公開

前号の本紙でご紹介しました、公共交通に関する市民のかたからの「市のホームページ上で、200円バスで行ける観光地を紹介してはどうか」とのご意見に基づき、早速「200円バスで行く京丹後の旅」と題したページを作成し、市のホームページで公開しています。

上限200円バスを利用し、市内観光できるスポットを紹介していますので、観光客のかたをはじめ、地区での愛護会行事や老人会行事などでご活用ください。

また、すでに全戸配布しています『京丹後市バス・鉄道・航空時刻表』も、ホームページで公開しています。

市のホームページアドレス <http://www.city.kyotango.kyoto.jp>



ご協力をお願いします

救急車の適正利用について

京丹後市では、昨年2,331件の救急出動がありました。これは、10年前と比較すると約1.5倍の出動件数になります。

救急出動の増加に伴い、直近の消防署では対応しきれず、遠方の消防署から救急車が出動するケースが増えています。

また、軽いケガや風邪など、客観的にみて救急車を必要としない症状で救急車を要請されるかたが多く、昨年救急車を利用されたかたの約4割が入院を必要としない『軽症』と診断されています。

救急車は本来、急病や事故などにより、生命が危険な状態にある傷病者を一刻も早く医療機関へ搬送するためのものです。

本当に救急車を必要とするかたの妨げとならないよう、適正な利用を心がけましょう。

救命率の向上を目指して

救命講習

傷病者の救命率を上げるためには、救急隊が現場に到着するまでの市民のみなさんによる応急手当が極めて重要です。

京丹後市消防本部では応急手当の正しい技術を身につけていただくために、各種救命講習会を行っています。昨年1年間に2,008人、過去10年間には、合計19,793人のかたが救命講習を受講され、心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）の取り扱い、止血法などを学ばれました。

大切なかたの命を守るために、ぜひ救命講習を受講しましょう。

- ① 傷病者が、心肺停止状態であると予想される場合
 - ② 救急隊のみでは、収容に時間がかかると思われる場合（住宅二階以上、海岸、山間部など）
 - ③ 救急活動に支障を及ぼすと予想される場合（交通事故など）
 - ④ 通信指令室員、または出動救急隊長が必要と認めた場合
- 以上のようなことが予想される場合、救急車と消防車がサイレンを鳴らして行くことがあります。火災とまぎらわしいと思います。が、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

前年に次ぐ出動件数

救急

2,331件

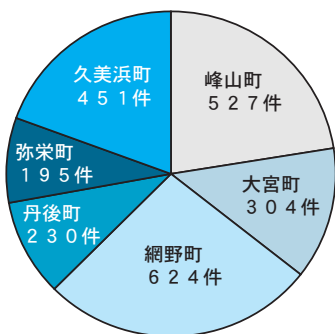
《44件減》

救急件数は、二、三三一件で、前年から四四件減少しましたが、過去最多であった前年に次ぐ二番目に多い件数となりました。一日の平均出動数は六・三九件で、約三時間四五分に一件出動したことになります。種別でみると、例年どおり急病が最も多く、次いで交通、一般負傷と続きます。出動が最も多い月は八月の二四六件で、一日の平均出動件数は七・九四件でした。

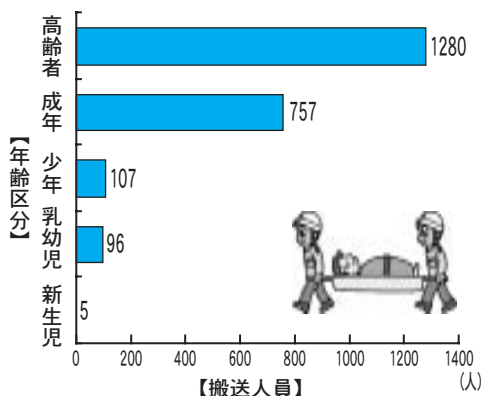
救急種別出動状況

●急病	1,411件
●交通	308件
●一般負傷	273件
●転院	219件
●自損行為	34件
●その他	86件

救急町別出動状況



救急年齢区分別搬送状況



救急一ロメモ



救急救命士
小森 英志

『救急支援について』

救急なのになぜ消防車。火事でもないのに救急車と消防車が来て驚かれたことはありませんか。

消防本部では、平成十五年十二月一日から救急出動時に救急車と消防車を同時に出動させる救急支援出動を行っています。

救急支援出動は次のような場合に出动します。

① 傷病者が、心肺停止状態であると予想される場合

② 救急隊のみでは、収容に時間がかかると思われる場合（住宅二階以上、海岸、山間部など）

③ 救急活動に支障を及ぼすと予想される場合（交通事故など）

④ 通信指令室員、または出動救急隊長が必要と認めた場合

以上のようなことが予想される場合、救急車と消防車がサイレンを鳴らして行くことがあります。

火災とまぎらわしいと思います。が、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

消防統計 2006

市民の力で



消防長
上田 賢

昨年は『救急』に対するさまざまな取り組みを行いました。「救マーク事業所認定制度」、「AEDの設置推進」、「普通救命講習会の開催」など、あらゆる取り組みで市民のみなさんも年々『救急』が身近なものに感じられたのではないのでしょうか。人工呼吸・心臓マッサージなどの救命講習修了者が増えてきていることはたいへんありがたく心強いことです。これからも職場で、あるいは地域で機会があれば進んで救急講習会などに足を運んでください。救急に限らず火災・救助などの件数が少しでも減っていくようにご協力をお願いします。

不注意から出火

原因別でみると、たき火の四件が最も多く、次いでストーブと火遊びからそれぞれ三件発生しています。火災原因の多くは、火の取り扱いの不注意や不始末によるものです。一人ひとりが火の正しい取り扱いを身につけ、『ついうっかり』をなくすることが大切です。

過去最多の火災件数

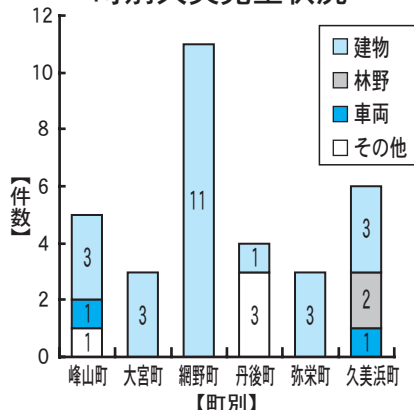
火災

32件

《1件増》

火災件数は、前年に比べ一件増え、過去最多の三二件発生しました。種別でみると、建物火災が前年よりも八件増加し二四件発生、林野火災二件、車両火災二件、その他火災が四件発生しています。平均すると、一一・四日ごとに一件火災が発生したことになります。火災による死者は一人、負傷者は五人発生しました。

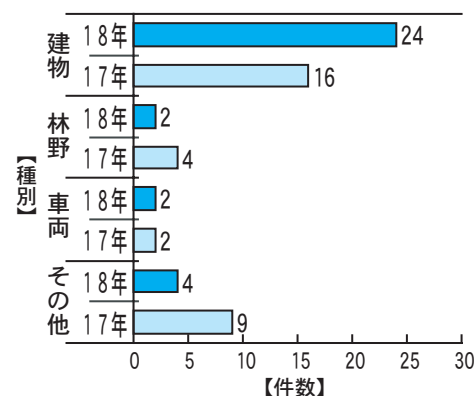
町別火災発生状況



火災原因

●たき火	4件
●ストーブ	3件
●火遊び	3件
●たばこ	2件
●風呂かまど	2件
●排気管	2件
●配線器具	2件
●放火の疑い	2件
●その他	12件

火災種別(対前年)



過去二番目の出動件数

救助

48件

《8件減》

救助件数は、過去最多だった昨年から六件減少し四八件でした。このうち救助活動を行った件数は三一件で、救助したかたは三七人でした。事故種別をみると、交通事故の三一件が最も多く、全体の六五パーセントを占めています。自然災害では、丹後町間人地区で大規模な土砂災害が発生し、お二人のかたが亡くなりました。署所別の出動件数は、本署の一七件が最も多く、久美浜分署が一二件、網野分署が一件、竹野川分遣所が七件でした。

救助種別

●交通事故	31件
●機械事故	4件
●水難事故	3件
●自然災害	2件
●その他	8件



グループにわかれ政策課題について討議

職員研修

市では、職員の業務執行における政策形成能力の向上を図るため、市独自の取り組みとしては初めて、「政策形成研修」を一月二十二日・二十三日の二日間にわたり開催し、地域振興や業務改善などに個々の発想を政策に反映するための手順や企画書の作成方法について学びました。

市では、新市誕生以来、職員としての使命を再確認し、まちづくりの基盤である市民のみなさんとの信頼関係を高めるため、市役所全体が「一丸となって」「サービスアップ運動（信頼・親切・スピードの3S運動）」に取り組んでいます。加えて、市民のみなさんに信頼される職員であるためには、職員自ら

の意識改革が最も重要なことであることから、市民のみなさんの立場に立って考えるとともに、親切・公正で迅速な行動ができる職員をめざし、さまざまな研修を行っています。

平成十八年度には、階層ごとに職務に必要な研修四回（参加者百八人）、能力開発関係の研修十回（同五十五人）、一般的知識に関する研修四回（同一千九百人）などを実施。（各職場から参加している専門的な研修は含みません）

能力開発をめざし

市独自の研修を推進

従来、市が行う職員研修は、主に関係機関が行っているものに職員を派遣する形式で実施してきましたが、派遣職員数に制約があることや実施施設までの移動距離が長いことなど非常に効率が悪いことから、市として特に重要であると位置づける研修については市独自に取り組むこととし、今回、能力開発型の研修としては初めて「政策形成研修」を市が主催し実施しました。

同研修会には、専門の講師を招き、課長補佐や主任級の職員四十人が、二日間わたる研修に専念できるように、職場から離れた「大宮ふれあい工房」



プレゼンテーション（成果発表）

市職員 住民ニーズを捉えた政策形成を学ぶ

（大宮町三坂）で受研。まず最初に、講師から「自治体（組織）は、永続性がなければならず、そこに住んでいるかたが住み続けたいと思えるまちづくりをしなければなら

ない。前例踏襲型だけの職員であつてはならない」と受研に当たつての基本姿勢が話されました。

研修は、▽政策形成の基本と仕組み、形成実務の手順、企画書の作成実務の習得、▽地方自治行政における施策について、研修を通じ現状をより深く認識すると同時に今後の職場や組織活性化づくりなどの課題についての研究、▽プレゼンテーション（成果発表）の能力向上などをねらいとして実施。

あつた、「政策形成の必要性を再確認することができた」、「今後の業務の中で活かしたい」とたいへん好評であり、さらに「この研修はもつと多くの職員が受けるべきだ」との指摘が多く寄せられました。

今後の研修計画としては、当面、「政策形成研修」に重点をおき、対象職員の範囲を広げ継続していくとともに、各種研修と組み合わせた市独自研修の充実を図りながら、研修機関などへ派遣を行う研修を効果的に組み合わせ、職員の資質向上を図ることとしています。

加えて、引き続き、国や府、財団法人へ職員を派遣し研修を行うこととし、現在は、経済産業省、総務省、内閣官房、資源エネルギー庁をはじめ、京都府の地方課、丹後土地改良事務所、財団法人の国際化協会、京都産業二一へ職員を派遣し、昨年八月二十八日には研修報告会を開催して、その成果を市民のみなさんに報告しています。

積極的に職場改革 9部署が業務改革の成果を市のホームページで発表



各部署がそれぞれの取り組み概要を、わかりやすくホームページ上で紹介

すに交換できた成果などについて、動画によりわかりやすく紹介しています。

市のホームページでは、これらの活動に対するご意見を募集するとともに、ほかの部署においても職員が一丸となり、さらなる改革・改善に取り組んでいくこととしています。

また、平成十八年度の「職員提案制度」では、職員から四件の提案が寄せられ、その中から「有害鳥獣であり、増え過ぎた『イノシシ』の肉の商品化・特産品化」を優秀提案として選定。イノシシや鹿を有効に活用し、地域の活性化に結びつけるための調査・研究経費をさつそく平成十九年度予算に計上しています。

市では、昨年度から職員による全庁的な「職場改革改善運動『TAN5（タンゴ）リンピック』」に積極的に取り組んでいます。そのような中、この運動を職員間で共有するとともに、広く市民のみなさんに知っていただくとうと、三月五日から市のホームページ上で、本年度に職場ごとにそれぞれが創意工夫して取り組んだ身近な日常業務の改善事例などの発表を行いました。

『TAN5（タンゴ）リンピック』は、▽職員が広く市政全般についての見直しや新しい業務企画を提案することにより、職員の士気を高め、活力ある強力な市の組織づくりを図る「職員提案制度」、▽職場単位で効率化や合理化、経費節減などについて自主的に業務の改革・改善に取り組む、その成

果の共有を図る「職場改革実践運動」からなり、職員の意識改革や主体的な取り組みを推奨していくものです。

今回のホームページを活用しての発表では、市民局や消防本部、保育所などが自主的に取り組んだ九事例を発表。「ミツシヨン死角を消せ」と題した取り組みでは、職員の席をカウンター向きにできることにより、来客者のかたへの迅速な対応につながっている事例を報告。また、「職場での公共交通機関利用の取り組み」では、職員が毎月一回以上、通勤に公共交通を利用する運動について紹介。さらに、「愛編むブルトツプ」や「やさしい気持ちのおすそわけリターンズ」として、保育所の保護者のかたや地域の方のみなさんの協力を得て収集したブルトツプを、車い

タイトル・概要

ミッション 死角を消せ！【丹後市民局市民福祉課】 来庁者のかたにすぐ対応できるように庁舎の席の向きを変更
弥栄唯一の情報コンビニ「セブンフィフティーン」【弥栄市民局】 市民にわかりやすい窓口のほか、弥栄町内の市民局だよりを発行
CONTINUATION POWER!! ～“改革・改善”への熱き3年間の取り組み～【消防本部竹野川分遣所】 この3年間の取り組みを振り返り、その成果を検証
愛編むブルトツプ ～やさしい気持ちのおすそわけリターンズ～【河辺保育所】 昨年から始めたブルトツプ収集の成果発表
地球温暖化対策情報誌「SELF」を発行【生活環境部環境推進課】 京丹後市地球温暖化対策実行計画の目標達成をめざし、職員向けの情報誌を発行
「職場での公共交通機関の利用取り組み」について【生活環境部市民課】 市職員自らの公共交通の利用促進の成果と課題について
お客様のために快適な待合室を【秘書広報広聴課】 市長への来客者のかたのために待合室を設置
窓口サービスアップ【峰山市民局】 よりわかりやすい窓口をめざして、案内表示を変更
りんりんりん どこか音？【企画政策部総合戦略課・企画推進課・行財政改革推進課】 すばやい電話対応をめざし、電話の着信音の設定を変更

職場改革改善

峰山消防署	消防課消防1係	係 長	○ 中西 則昭（網野分署警備1係）
	消防課消防1係		松本 欣也（久美浜分署警備1係）
	消防課消防1係		松本 努（久美浜分署警備2係）
	消防課消防1係		山本 篤生（総務課）
	消防課救急1係		指田 竜（消防課消防2係）
	消防課予防1係		廣野 克巳（予防課）
	消防課予防1係		木下 哲也（消防課消防1係）
	消防課消防2係		中田 和之（竹野川分遣所警備1係）
	消防課消防2係		田家 彰浩（消防課消防1係）
	消防課消防2係		矢谷 正利（網野分署警備2係）
	消防課消防2係		村野 二郎（久美浜分署警備2係）
	消防課消防2係		平井 孝直（総務課）
	消防課救急2係		和田 英樹（予防課）
	消防課救急2係		中西 孝文（久美浜警備1係）
	消防課予防2係	係 長	上田 一朗（予防課）
	消防課予防2係		平井 信也（消防課消防1係）
	指令室	指令室長	奥田 直人（竹野川分遣所）
	指令室指令2係	係 長	○ 渡邊登世浩（網野分署警備2係）
	指令室指令3係		梅田 雅弘（竹野川分遣所警備2係）
	予防課	課長補佐	小牧 文麿（消防課消防1係）
	網野分署警備1係		山下 良之（久美浜分署警備2係）
	網野分署警備1係		井上 忠司（消防課消防2係）
	網野分署警備1係		木下 夢大（網野分署警備2係）
	網野分署警備2係		永岡 晃（竹野川分遣所警備2係）
	網野分署警備2係		岩田 善雄（消防課消防2係）
	網野分署警備2係		富田 良（久美浜分署警備2係）
	網野分署警備2係		木村 好宏（網野分署警備1係）
	網野分署警備2係		三宅 英樹（消防課消防2係）
	久美浜分署警備1係	係 長	安川 郁夫（総務課総務係）
	久美浜分署警備1係		日下部宣仁（消防課救急1係）
	久美浜分署警備1係		山本 景一（網野分署警備2係）
	久美浜分署警備2係		堀江 正男（消防課消防1係）
	久美浜分署警備2係		吉岡 徹也（網野分署警備1係）
	久美浜分署警備2係		浅田 智成（竹野川分遣所警備1係）
	久美浜分署警備2係		今井 大祐（竹野川分遣所警備2係）
	竹野川分遣所	分遣所長	○ 吉田 件昨（消防課）
	竹野川分遣所警備1係	係 長	井上 一彦（久美浜分署警備1係）
	竹野川分遣所警備1係		川戸 一太（消防課消防2係）
	竹野川分遣所警備1係		安井 英人（消防課救急2係）
	竹野川分遣所警備2係		増田 淳（指令室指令3係）
	竹野川分遣所警備2係		中村 猛（消防課消防2係）
	竹野川分遣所警備2係		山形 昭裕（網野分署警備2係）

学校・給食センター	五箇小学校	森本由美子（田村小学校）
	丹波小学校	田中 暁子（久美浜中学校）
	峰山中学校	川原 英子（丹波小学校）
	大宮第一小学校	荒田 綾子（峰山中学校）
	大宮第三小学校	木成八千代（吉野小学校）
	大宮中学校	野村 弘和（大宮第三小学校）
	大宮中学校	川竹百合子（大宮第三小学校）
	吉野小学校	形山 好恵（弥栄中学校）
	弥栄中学校	田丸 良子（大宮中学校）
	田村小学校	田中可寿子（久美浜小学校）
	神野小学校	佐野 大裕（川上小学校）
	久美浜中学校	藤原 誠一（神野小学校）
幼稚園	網野幼稚園	園長 梅田津也子（丹波保育所）
	峰山幼稚園	野村 圭乃（網野幼稚園）

大宮市民局	市民福祉課		今田 昇一（農林水産部農村振興課）
	市民福祉課		安達真里子（総務部財産管理課）
	市民福祉課		岸田 裕幸（峰山市民局市民福祉課）
	市民福祉課		栗森 絢子（教育委員会事務局学校教育課）
	地域事業課	課長補佐	堀 弥壽彦（上下水道部下水道課）
網野市民局	地域事業課		鈴木 常敏（建設部都市計画・建築住宅課）
	市民福祉課	課長補佐	福尾 昌信（商工観光部丹後の魅力総合振興課）
	市民福祉課		藤原 純子（保健福祉部子育て支援課）
	市民福祉課		松井 稔（総務部税務課）
	市民福祉課		平林 克也（久美浜市民局市民福祉課）
丹後市民局	地域事業課	課 長	○ 森田 正二（網野市民局地域事業課）
	地域事業課	課長補佐	柴田 隆行（網野市民局市民福祉課）
		市民局長	○ 矢野 節雄（大宮市民局市民福祉課）
	市民福祉課	課 長	東 和彦（丹後市民局市民福祉課）
	市民福祉課	課長補佐	安田 勉（総務部財産管理課）
弥栄市民局	市民福祉課		吉岡加代子（弥栄市民局市民福祉課）
	市民福祉課		広瀬 正二（総務部税務課）
	地域事業課	課 長	川口 富義（上下水道部下水道課）
	地域事業課		梅田 弘司（商工観光部観光振興課）
	市民福祉課	課長補佐	山副佳代子（保健福祉部子育て支援課）
久美浜市民局	市民福祉課		溝尻 美徳（保健福祉部高齢者福祉課）
	地域事業課		坪倉 正樹（建設部管理課）
	地域事業課		梅田研二郎（上下水道部下水道課）
	市民福祉課	課 長	○ 後藤 圭治（峰山市民局市民福祉課）
	市民福祉課		宮本 茂（建設部土木課）
会計管理者	市民福祉課		小坂 貴寛（網野市民局市民福祉課）
	地域事業課		松本 哲朗（農林水産部農村振興課）
	会計管理者	会計課長兼務	堂田 孝二（監査委員事務局）
		会計課	中村 典嗣（建設部都市計画・建築住宅課）
		教育総務課	坪倉 武広（生活環境部市民課）
教育委員会事務局	学校教育課		廣嶋恵津子（教育委員会事務局丹後教育分室）
	学校教育課		田中 順子（峰山市民局地域事業課）
	学校教育課		松本 尚子（保健福祉部高齢者福祉課）
	網野学校給食センター	センター長	○ 小森 和男（教育委員会事務局網野学校給食センター）
	社会教育課		小森 教正（久美浜病院事務部管理課）
	社会教育課		給田 周作（教育委員会事務局網野教育分室）
	社会教育課		和田慎太郎（総務部税務課）
	市立図書館(峰山)		藤原恵美子（教育委員会事務局峰山図書館）
	市立図書館(あみの)	館 長	○ 松岡 豊美（教育委員会事務局あみの図書館）
	市立図書館(あみの)		田辺 聖子（教育委員会事務局あみの図書館）
	峰山地域公民館		中村 孝幸（教育委員会事務局峰山教育分室）
	大宮地域公民館		水口 規宏（総務部 総務課）
	網野地域公民館		松平 哲朗（教育委員会事務局網野教育分室）
	丹後地域公民館		久保 和明（教育委員会事務局丹後教育分室）
	弥栄地域公民館		吉田 茂夫（教育委員会事務局弥栄教育分室）
監査委員事務局	久美浜地域公民館		土出 政信（教育委員会事務局久美浜教育分室）
	文化財保護課	課 長	○ 吉田 誠（教育委員会事務局文化財保護課）
	文化財保護課	課長補佐	○ 横島 勝則（建設部管理課）
	文化財保護課		能勢 知生（久美浜市民局地域事業課）
		事務局長	大久保 亨（農林水産部農村振興課）
農業委員会事務局		課長補佐	矢野 義則（大宮市民局市民福祉課）
	総務課総務係	係 長	山添 敏弘（総務課管理係）
	総務課		府立消防学校派遣 金子 博文（消防2係）
	総務課総務係		寺田 知博（教育委員会事務局学校教育課）
	総務課管理係	係 長	○ 池田 弘幸（総務課管理係）
消防本部	総務課		篠村 直樹（新規採用）
	総務課		後藤 真哉（新規採用）
	総務課		小谷 将貴（新規採用）
	総務課		坂本 竜児（新規採用）
		署 長	才本 茂（消防課）
峰山消防署	消防課 指令室長兼務	課 長	奥田 直人（竹野川分遣所）
	消防課	課長補佐	○ 横山 文明（消防課消防1係）
	消防課	課長補佐	○ 吉岡日出圭（消防課救急2係）

職員配置表

4月1日付けで職員の配置換えを行いましたので、お知らせします。(異動者のみ掲載)

※医師は次号に掲載します。 ※役職は、係長以上を付記 ※○印は、昇格者

保健福祉部	子育て支援課		梅田 友紀（大宮市民局市民福祉課）
	健康推進課	課 長	岸本 英志（建設部管理課）
	健康推進課		吉田 真理（上下水道部下水道課）
	健康推進課	網野市民局市民福祉課兼務	村田加代子（保健福祉部健康推進課）
農林水産部		部 長	蒲田 幸造（峰山市民局）
	農村調整課		川戸 潤子（総務部税務課）
	農村振興課	課 長	○ 廣野 勝義（生活環境部医療保険課）
	農村振興課		岡崎不二夫（上下水道部下水道課）
	農村振興課		田中 弘人（弥栄病院事務部管理課）
	農村整備課		松山 正（農林水産部農村調整課）
	農村整備課		足達 和則（農林水産部農村調整課）
	農村整備課		井上 辰也（上下水道部下水道課）
	海業水産課	課 長	○ 小石原古雄（農林水産部海業水産課）
	海業水産課	課長補佐	○ 堀江 利彦（建設部土木課）
商工観光部	海業水産課		下田 浩二（建設部土木課）
	海業水産課		岡野 勲（教育委員会事務局久美浜教育分室）
	海業水産課		川浪周一郎（商工観光部商工振興課）
	商工振興課	課長補佐	○ 高田義一郎（総務部財政課）
	商工振興課		溝尻 尚敏（農林水産部海業水産課）
	商工振興課		京都産業21派遣 高田 亮平（大宮市民局市民福祉課）
	商工振興課		京都産業21派遣解く 田中 光男（商工観光部商工振興課）
	観光振興課	課長補佐	○ 藤原 和子（生活環境部医療保険課）
	観光振興課		岩崎 浩一（久美浜市民局地域事業課）
	丹後の魅力総合振興課	課 長	○ 新井 清宏（企画政策部総合戦略課）
建 設 部	丹後の魅力総合振興課	課長補佐	○ 西村誠志郎（大宮市民局市民福祉課）
	丹後の魅力総合振興課		経産省派遣 高橋 尚義（企画政策部総合戦略課）
	丹後の魅力総合振興課		地場産派遣 小林 英樹（商工観光部丹後の魅力総合振興課）
	丹後の魅力総合振興課		経産省派遣解く 宇野 浩嗣（商工観光部丹後の魅力総合振興課）
	管理課	課 長	蒲田 保彦（丹後市民局地域事業課）
	管理課		近藤 淳（弥栄市民局地域事業課）
	管理課		吉谷 健也（農林水産部農村整備課）
	土木課		大木 保人（上下水道部下水道課）
	土木課		花満 昌輝（上下水道部下水道課）
	都市計画・建築住宅課		坪倉 良樹（網野市民局市民福祉課）
上下水道部	都市計画・建築住宅課		野村 俊彰（農林水産部海業水産課）
	都市計画・建築住宅課		西口 紀行（上下水道部下水道課）
	水道課	課 長	引野 都夫（農林水産部海業水産課）
	水道課	課長補佐	山本 桂輔（上下水道部下水道課）
	水道課		三浦 直基（建設部管理課）
	水道課		野村 博史（上下水道部下水道課）
	水道課		吉岡 正英（弥栄市民局地域事業課）
	下水道課	課長補佐	大木 利男（生活環境部環境推進課）
	下水道課		平林 順一（農林水産部農村整備課）
	下水道課		岸本 忍（網野市民局地域事業課）
峰山市民局	下水道課		山本 亮介（建設部都市計画・建築住宅課）
	下水道課		蛭子ひとみ（企画政策部企画推進課）
		市民局長	○ 和田 道雄（企画政策部行財政改革推進課）
	市民福祉課	主 幹	深田 浩志（弥栄病院事務部管理課）
	市民福祉課	課長補佐	○ 松本真理子（峰山市民局市民福祉課）
	市民福祉課		西川 隆貴（総務部税務課）
	市民福祉課		土田 正幸（企画政策部情報政策課）
	市民福祉課		田中 寿夫（大宮市民局市民福祉課）
	地域事業課	課長補佐	○ 山本 忍（峰山市民局地域事業課）
	地域事業課		松崎 良幸（峰山市民局市民福祉課）
大宮市民局	市民福祉課	課 長	○ 太田 弘保（保健福祉部障害者福祉課）
	市民福祉課	課長補佐	中邑 正樹（総務部税務課）
議会事務局	議会総務課		千賀 誠（網野市民局市民福祉課）
企画政策部	秘書広報広聴課	課長補佐	○ 渡邊 歩（秘書広報広聴課）
	秘書広報広聴課		松本 隆明（議会事務局議会総務課）
	総合戦略課		澤 学爾（保健福祉部高齢者福祉課）
	総合戦略課	情報政策課兼務	安井 克弘（総務省派遣）
	企画推進課	課長補佐	○ 川口 誠彦（企画政策部企画推進課）
	企画推進課		竹内 昌明（生活環境部環境推進課）
	企画推進課		沖 学（商工観光部観光振興課）
	企画推進課		山下 琢（生活環境部環境推進課）
	企画推進課		今西 靖佳（保健福祉部高齢者福祉課）
	行財政改革推進課	課 長	○ 藤村 信行（企画政策部企画推進課）
総 務 部	行財政改革推進課	課長補佐	○ 辻村 実（総務部財政課）
	情報政策課		道家 城作（丹後市民局市民福祉課）
	情報政策課	総務省等派遣	井上 和也（企画政策部行財政改革推進課）
	総務課	課 長	○ 川口 勝彦（総務部総務課）
	総務課	課長補佐	中村 和幸（企画政策部企画推進課）
	総務課		小石原正和（総務部税務課）
	総務課		平田友美子（峰山市民局市民福祉課）
	人事課		佐川 清隆（網野市民局市民福祉課）
	財政課	地方課派遣解く	中山 彰人（総務部財政課）
	財政課	自治振興課派遣	永美 崇志（丹後市民局地域事業課）
医療改革推進政策監付	財産管理課	課長補佐	吉村 真（大宮市民局地域事業課）
	財産管理課		高田 洋（教育委員会事務局大宮教育分室）
	税務課	課長補佐	○ 山形 健一（総務部税務課）
	税務課		坂戸 清幸（丹後市民局地域事業課）
	税務課		志村 吉宗（企画政策部情報政策課）
	税務課		大槻 秀明（総務部人事課）
	税務課		清水 和則（会計課）
	税務課		西村 彩子（教育委員会事務局久美浜教育分室）
	税務課		片西 優（保健福祉部子育て支援課）
	政策監付補佐		荻野 正樹（農業委員会事務局）
生活環境部	市民課	主 幹	○ 西垣善太郎（生活環境部市民課）
	市民課	課長補佐	○ 田村美乃枝（生活環境部市民課）
	市民課	課長補佐	中田 裕雄（秘書広報広聴課）
	市民課		川口 敏一（保健福祉部高齢者福祉課）
	市民課		上田 雅彦（農林水産部農村振興課）
	医療保険課	課 長	古橋 伸一（保健福祉部高齢者福祉課）
	医療保険課	課長補佐	中地 孝雄（峰山市民局市民福祉課）
	医療保険課		吉岡 恵美（商工観光部商工振興課）
	医療保険課		森野 恵子（教育委員会事務局大宮教育分室）
	医療保険課		蒲田 真穂（弥栄市民局市民福祉課）
保健福祉部	環境推進課	課 長	○ 松本 喜子（生活環境部市民課）
	環境推進課	課長補佐	○ 後藤 正明（生活環境部環境推進課）
	環境推進課		大江 裕（商工観光部観光振興課）
	環境推進課		吉田 茂喜（企画政策部企画推進課）
	生活福祉課		谷口 敏典（保健福祉部障害者福祉課）
	障害者福祉課	課長補佐	川戸 一生（弥栄市民局市民福祉課）
	高齢者福祉課	課 長	安達 忠行（保健福祉部健康推進課）
	高齢者福祉課		西井喜代美（保健福祉部健康推進課）
	高齢者福祉課		増田 裕貴（丹後市民局市民福祉課）
	高齢者福祉課		高橋 典子（保健福祉部生活福祉課）

緑の募金にご協力ください

【緑の募金の目的】

災害の被害軽減、水源涵養、木材供給、温暖化軽減など、森林にはさまざまな機能があります。私たちの生活に欠かすことのできない森林を健全に未来に引き継ぐため、森林の恩恵を受けている私たち府民が一丸となり、森林の整備・保全を進めることが求められています。

人と森・樹の関係を活発にし、森林を持続的に保全するため、緑の募金活動を展開しています。

【このようなことに使われます】

みなさんからいただいた大切な緑の募金は、青少年の環境教育、フォーラムの開催支援などによる普及啓発活動や、地域や学校などの緑化活動に活用されています。

普及啓発



植物観察



下草刈り



フォーラムなどの開催支援

青少年の自然体験教育

緑化活動



地域の緑化



学校の緑化

【いつやるの??】

緑の募金は、毎年春、秋の2期にわたり実施されます。

春期募金期間 3月20日～5月31日

秋期募金期間 9月1日～10月31日

丹後モデルフォレスト地域協議会、与謝地方林業振興会
丹後地方林業振興会、京都府丹後広域振興局
連絡先：京丹後市峰山町丹波855（☎62-4306）



弥栄病院事務部	管理課	課長	○ 吉岡 正俊 (医療政策監付)
	管理課		近藤 咲美 (総務部総務課)
久美浜病院事務部	管理課	課長補佐	○ 岸本 繁之 (総務部税務課)
	管理課		若松 和彦 (教育委員会事務局教育総務課)

弥栄病院技術部	主任理学療法士	○ 梅田 匡純 (弥栄病院技術部)
弥栄病院薬剤部		金森 政典 (新規採用)
弥栄病院看護部	看護師長	○ 三浦 明美 (弥栄病院看護部)
	主任看護師	○ 加藤 弘子 (弥栄病院看護部)
	主任看護師	○ 渡辺美佐子 (弥栄病院看護部)
		讃岐 典子 (新規採用)
		才本 良子 (新規採用)
		吉岡 美紀 (新規採用)
		久岡 直美 (新規採用)
		松本 恵 (新規採用)
		中谷 朱美 (新規採用)
		和久田幸代 (新規採用)
		小西 恵 (新規採用)
		今田 寿江 (新規採用)
弥栄病院訪問看護ステーション	主任看護師	○ 松尾 慶子 (弥栄病院訪問看護ステーション)
久美浜病院看護部	総看護師長	○ 富川 美恵 (地域医療連携室)
	看護師長	○ 藤本 江見 (久美浜病院看護部)
	主任看護師	白岩真寿美 (久美浜病院通所リハビリテーション)
		奥谷 典子 (新規採用)
		田中 英三 (新規採用)
		埋金 瑞 (新規採用)
		宇野 朋子 (新規採用)
		廣田 麻衣 (新規採用)
		吉谷 尚子 (新規採用)
久美浜病院地域医療連携室	室長	田中 文子 (久美浜病院看護部)
久美浜病院通所リハビリテーション		安達 徹 (新規採用)
生活環境部 大宮診療所		奥田 貴代 (弥栄病院)

退職

(3月31日付け)

増田 英雄 (農林水産部 部長)	中西 定征 (峰山消防署 署長)	西村 淑子 (五箇小学校)
山本 邦昭 (丹後市民局 市民局長)	浅田 武士 (峰山消防署指令室 室長)	田中 繁野 (丹波小学校)
小石原仲秀 (総務部総務課 課長)	河村 安英 (峰山消防署指令室 副室長)	糸井智佳子 (大宮第一小学校)
吉岡 誠一 (生活環境部医療保険課 課長)	松尾 秀行 (峰山消防署予防課 課長補佐)	糸井 照雄 (大宮中学校)
福井 利道 (生活環境部環境推進課 課長)	坂井 和正 (峰山消防署竹野川分遣所 警備1係長)	兵藤 一子 (網野幼稚園 園長)
松田 正信 (保健福祉部子育て支援課 課長)		
中村 雅 (商工観光部丹後の魅力総合振興課 課長)	今西 恒子 (峰山保育所 所長)	松田 美鶴 (弥栄病院看護部 看護師長)
久岡 昭雄 (網野市民局地域事業課 課長)	松本 早苗 (網野みなみ保育所 所長)	金森 明子 (弥栄病院地域医療連携室)
藤村 隆生 (丹後市民局市民福祉課 課長)	東 裕子 (間人保育所 所長補佐)	大野木宏彰 (弥栄病院技術部)
黒崎 勇 (教育委員会事務局文化財保護課 課長)	今西 久野 (和田野保育所 所長)	中島 麻矢 (弥栄病院看護部)
吉岡 森 重俊 (生活環境部市民課 主幹)	谷山美代子 (鳥取保育所 所長)	田中 桂子 (弥栄病院看護部)
坂本 裕子 (丹後市民局市民福祉課 主幹)	田宮美枝子 (湊保育所 所長)	藤田まゆみ (弥栄病院看護部)
行待 彰 (弥栄市民局地域事業課 主幹)	新井 和美 (五箇保育所)	小南 一枝 (弥栄病院看護部)
堀江 豊子 (商工観光部観光振興課 課長補佐)	岡田みつ子 (河辺保育所)	
番場 常夫 (峰山市民局地域事業課 課長補佐)	池本百合子 (網野保育所)	岡田 良一 (久美浜病院事務部管理課 課長補佐)
安田 則子 (丹後市民局市民福祉課 課長補佐)	中江小夜子 (下宇川保育所)	井通 純子 (久美浜病院看護部 総看護師長)
川戸 剛 (教育委員会事務局網野学校給食センター センター長)	平林以千子 (鳥取保育所)	田中三枝子 (久美浜病院看護部)
入江 君子 (会計課 主査)	稲田 月子 (湊保育所)	辻 知子 (久美浜病院看護部)
栗倉 伸雄 (生活環境部医療保険課)		
山本エミコ (久美浜市民局市民福祉課)		田中真由美 (生活環境部 大宮診療所)
野村 薫 (久美浜市民局市民福祉課)		
松村 真弓 (教育委員会事務局弥栄教育分室)		

峰山保育所	所長	梅田 幸子 (長岡保育所)
吉原保育所		古村 佳子 (神野保育所)
長岡保育所	所長	○ 野村三重子 (河辺保育所)
新山保育所		徳田 美絵 (大宮南保育所)
丹波保育所	所長	○ 山添由美子 (新山保育所)
口大野保育所		多賀野博子 (峰山保育所)
大宮南保育所		高杉 弘子 (網野みなみ保育所)
		鳥垣 泰加 (浅茂川保育所)
		西村 蘭子 (古原保育所)
河辺保育所		奥野麻衣子 (島津保育所)
		大木登志子 (大宮南保育所)
善王寺保育所		中村由里子 (新山保育所)
網野保育所		高田 悦美 (大宮南保育所)
		小村 佳世 (久美浜保育所)
		丸岡真理子 (浅茂川保育所)
網野みなみ保育所	所長	中村恵美子 (網野みなみ保育所)
	所長補佐	○ 藤原 弘子 (網野みなみ保育所)
		深田 美和 (河辺保育所)
浅茂川保育所		小松 靖幸 (網野学校給食センター)
島津保育所		松本亜紀子 (たちばな保育所)
間人保育所		松井 千鶴 (口大野保育所)
豊栄保育所		中村 真子 (上宇川保育所)
下宇川保育所		佐々木真由美 (豊栄保育所)
		畑中 ゆみ (網野みなみ保育所)
上宇川保育所		谷岡 朝子 (下宇川保育所)
和田野保育所	所長	○ 平林かよ子 (黒部保育所)
		山口ゆかり (和田野保育所野間分園)
和田野保育所野間分園		吉岡 里美 (間人保育所)
鳥取保育所	所長	○ 吉岡 典子 (鳥取保育所)
		上田真規子 (溝谷保育所)
		堀 幸恵 (島津保育所)
溝谷保育所	所長	吉岡ますみ (吉野保育所)
		本井千加子 (たちばな保育所)
		小野崎美環 (和田野保育所)
吉野保育所	所長	久岡 弥生 (溝谷保育所)
湊保育所	所長	○ 嶋崎さなえ (田村保育所)
		岡田 節子 (田村保育所)
神野保育所		東 由美子 (網野みなみ保育所)
田村保育所		小国 千鶴 (こうりゅう保育所)
		越江 絵梨 (こうりゅう保育所)
こうりゅう保育所	所長補佐	○ 岡田 茂子 (こうりゅう保育所)
		藤原 知子 (大宮南保育所)

あなたの声を市政に

紙面の都合によりご意見を一部割愛させていただきます。

ご意見箱

Q 選挙経費削減のため、投票所事務などを公募してはどうか

選挙のとき、投票所で職員が従事している事務を、市民から公募されることはないのですか。

以前、議会で選挙当日の立会人の公募について質問されましたが、選挙にお金をかけすぎないよう、開票事務も時間給で公募することも大切なのではないのでしょうか。そうすれば、行政に関心を持つ市民も増えてくると思いますし、市がめざす「市民と行政の協働」としても取り組むべきであると思います。また、選挙当日の職員の休日出勤は、手当てではなく、振り替えにすべきではないのでしょうか。

議会で質問や提案があった後、どうなったのか知るにはどうしたらよいのでしょうか。

【市内・女性】

A 開票も含め、アウトソーシング可能な事務などを精査していきます

今回いただきましたご意見について、選挙事務を管理する市選挙管理委員会へ確認したところ、次のとおり回答が

ありました。

「選挙管理委員会では、昨年四月に執行された京都府知事選挙において、初めて期日前投票所投票立会人を市民のみなさんから公募しました。その結果、七十八人の市民のかたに応募していただき、行政に関心をもっておられるかたが多いことを再確認し、期日前投票所投票立会人として選挙事務に従事していただきました。

選挙事務には、多くの個人情報が付随し、また投票事務の円滑、順調、迅速処理を適切に講じるため、それらの取り扱いには慎重を期さなければなりません。現在、アウトソーシング（業務の担い手を外部に求めること）できる業務などを精査し、事前に十分な研修が実施できる体制を整えた上で、選挙当日の投票所の事務、開票作業につきましても、職員以外のかたにお願いするよう方法を検討しているところであり、できれば今年七月に予定されている参議院議員通常選挙で実現させたいと考えています。

また、アウトソーシングを推進することは、選挙経費の削減となり、それ

が市民のみなさんと行政の協働につながっていくのではないかと考えます。市職員の振り替え（代休）措置については、多くの市職員が選挙事務に携わることから、平日業務に支障をきたさない範囲で実施できるかなど、市当局と協議を行いたいと考えます」とのことでした。

市としても平日業務に支障をきたさないよう、また選挙経費の削減に少しでも貢献することとなるよう、市選挙管理委員会とよく検討してまいりたいと思います。

なお、議会での質問や提案への対応も含め、何かご質問や行政についての不明な点などありましたら、お気軽に所管する部局などへお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【総務課】

Q 市の管理する施設の日も早い禁煙対策を

昨年の広報きょうたんご十月号の中で、健康とたばこの話が出ていました。また、ご意見箱のページにも喫煙の話題が掲載されていました。私も検診のたびにたばこのことを言われました。

保育所は、禁煙の表示が見当たりませんが、学校には禁煙の表示があり、敷地内での喫煙はできませんし、病院は建物内に禁煙という表示が見られます。しかし、市役所をはじめ市民局やそのほかの多くの市の管理施設では、喫

煙ができる状態です。

市は健康と職員の業務専念のため、一日も早く市関連施設を禁煙にすべきです。

【無記名】

A 分煙対策に努めるとともに職員へ喫煙マナーを周知徹底します

平成十五年五月に施行された健康増進法において、事務所そのほか、多数のかたが利用する施設の管理者に対し、受動喫煙防止対策を講ずることが義務化されました。

市の管理する施設では、たばこを吸うかた、吸われないかたともに気持ちよく施設を利用していただけるよう、一部喫煙コーナーを設け、分煙対策に努めるとともに、職員に対して、喫煙の際の留意事項などについて、次のとおり通知したところです。今後もあらゆる機会をとらえて徹底していきいたいと考えておりますし、場所と状況に応じた禁煙自体の必要性などについても、問題意識を持ち続けておきたいと思っています。

○各庁舎によつて喫煙対策事情が異なるため、それぞれの庁舎管理担当課の指示に従うこととし、指定された場所以外では吸わないこと。

○喫煙専用室および分煙対策済み以外の場所での喫煙については、非喫煙者への受動喫煙防止に配慮すること。

○各課の管理している公共施設および各種行事における喫煙対策については、「ご意見」や健康増進法の趣旨を踏まえて、適切な対応をすること。

また、保育所における禁煙対策については、子どもたちの健やかな成長のため、園庭を含め、施設内を禁煙としており、禁煙の表示はしていませんが、「保育所だより」などでお知らせしています。

なお、市では、禁煙サポート対策として、卒煙を望まれる市民のみなさんを対象とした卒煙講座を開催するなど、禁煙を支援するための対策を講じているところであり、職員に対しても、あらゆる機会を通じて、卒煙を勧めていきたいと思っています。

【総務課】

Q 今ある防犯灯の点検、交換をお願いします

防犯灯の点灯しない箇所があります。新規要望も大事ですが、今までのものも点検し、蛍光灯を交換するなどの必要があると思われるます。

【無記名】

A 自治区との協力による定期的な点検を行っていきます

京丹後市内には、約一万

★投稿に際しておねがい★

ご意見箱へお寄せいただくご意見には、特定の個人や団体などへの誹謗・中傷を除き、すべてお答えすることとし、お名前や連絡先をご記入いただいているかたにつきましては、直接お答えもさせていただきます。一方、お名前や住所などの連絡先の記入のないものにつきましては、市のホームページおよび広報紙でお答えすることとしています。

ホームページには、個人情報に関するものを除き、随時掲載していますが、広報紙は月に1回の発行であり、どうしてもお答えを掲載するのに時間がかかってしまいます。また、広報紙では紙面が限られているためご意見やお答えを一部割愛して掲載することとなります。

これまで、お名前や連絡先などが記されていたご意見では、ご意見の内容を確認させていただき、できる限り正確でいねいな回答をお返すように努めています。お名前や連絡先などが記されていないご意見につきましては、再質問的に何度もいただいているご意見もあります。正確な回答をできるだけ速やかにお返すために、住所をはじめ、お名前・連絡先などをぜひご記入ください。

Q 今後、開放市長室は開催されないのですか

今年度は、開放市長室を開催されていないようですが、なぜですか。確か、公約だったように思うのですが、私の思い違いでしょうか。お聞かせください。

【市民課】

A より多くの市民のみなさんと懇談のため、市政懇談会として開催していきます

開放市長室は、市民本位、市民起点の行政を築きあげるとともに、開かれた市政の実現を図ろうと、市長室を開放し、市長が市民のみなさんのお声を直接聞かせていただく機会として、平成十六年度に二回、平成十七年度に一回

実施しました。

開放市長室では、市民のみなさんのおひとり、おひとりのお声を丁寧にお聞かせいただける利点がある一方で、面談できる人数や、面談時間などが制約されるため、平成十七年度からは、より多くの市民のみなさんと懇談できるように、市政懇談会として、市長のほか、市幹部職員とともに、地域へ出向き、多くの市民のみなさんと直接、意見交換を行っています。

今後、開放市長室の持ち方についても検討を加えながら、年二回程度の回数で、市政懇談会の形式で開催していきたいと思っておりますので、ご参加いただき、市政に対するご理解と協働意識を深めていただきたいと思います。

【秘書広報広聴課】

京丹後市の文化財 二九

大宮町

大宮売神社境内

（おおみやめじんじゃけいだい）

今回は、大宮町周枳（すき）の大宮売神社境内をご紹介します。

本紙の平成十六年九月号においてもご紹介しましたが、大宮売神社は、平安時代の「延喜式（えんぎしき）」という書物に掲載されている古い神社です。御祭神二座のうち一座は、宮中八神の一神である大宮売神であり、もう一座は若宮売（わかみやめ）神です。

南西から北東方向に長くのびる神社参道は、美しい松並木が続きます。その先に位置する神社境内は、本殿北側に現在も禁足地（きんそくち）の杜があります。

また、本殿前には石燈籠二基（国重要文化財）や、旧本殿（市指定文化財）といった文化財があり、古社のたたずまいを残しています。

神社のある場所は、古墳時代中期（およそ一五〇〇年前）にお祭りが行われていた祭祀遺跡（さいしいせき）があったことがわかっています。

大正十二年（一九二三年）に発刊された「京都府史蹟勝地（しせきしょうち）調査会報告第五冊」には、京都帝国大学（現在の京都大学）の梅原未治さんにより、これまでに採集された資料の報告が行われているほか、境内地の鳥居と拝殿の中間地点において六尺（約一・八メートル）四方の試掘調査が行われています。試掘調査の結果は、一尺五六寸（約〇・五メートル）の厚さで表土と、約二尺（約〇・六メートル）の黒色土があり、この土に土器や石製品が含まれていると報告されています。その下層は、砂利が混じる粘土層のようです。同じような土の堆積は、平成十二年に神社周辺で行われた公共下水道工事に伴う立会調査のときにも見られました。この安定した砂利混じりの粘土層上では、弥生時代以降に人々が生活していたと考えられます。なお、この立会調査では、弥生時代中期を中心とする土器が、大量に出土した川（また

たは溝）の跡をいくつか確認しており、峰山町長岡の途中ヶ丘遺跡のような弥生時代の環濠集落がこの地にあったのではないかと考えられています。

神社境内で採集された資料は、梅原さんの報告によると、滑石（かたせき）という軟らかい石でつくられた玉類（勾玉・小玉）をはじめ、鏡形・鐶形（やじりがた）の滑石製模造品、ミニチュアの土器があります。実用品を滑石やミニチュア土器で模倣したものは、祭祀（お祭り）に使われたものと考えられています。（財）京都市埋蔵文化財研究所の吉村正親さんによると、一緒に採集されている須恵器（すえぎ）などの形から、これらの資料は、古墳時代中期（五世紀）に行われた水にかかわる祭祀に使われたものと推定されています。



大宮売神社境内

市立図書館 ご案内

4月から全館（6館）、祝日開館をはじめます

今年のゴールデンウィークは、ぜひ図書館へ！

図書館カレンダー 4月29日（日）～5月6日（日）

4月29日（日）	開館	昭和の日
4月30日（月）	×	休館日
5月1日（火）	×	館内整理日
5月2日（水）	開館	
5月3日（木）	開館	憲法記念日
5月4日（金）	開館	みどりの日
5月5日（土）	開館	子どもの日
5月6日（日）	開館	

..... 図書館利用Q&A

Q 京都府立図書館がはじめた「eサービス」ってどんなサービスですか？

A 平成19年3月からスタートしたインターネットによる京都府立図書館資料の取り寄せ申し込みサービスのことです。

「eサービス」は、市町村図書館などに所蔵されていない本が府立図書館にある場合、その本の市町村図書館などへの取り寄せを、インターネットで申し込みできるサービスです。これまでは、来館して依頼しなければならなかったことが、インターネットでできるようになり、より便利になりました。詳しくは、図書館（室）にお尋ねください。

Q 借りた絵本が破れていたのにセロハンテープで修理しましたが、よかったでしょうか？

A 借りられた本が破れていたり、万が一ご利用の際に破れたときは、修理などしないでそのままお持ちください。また、落書きや汚れに気づかれたときも職員にお知らせください。

読み聞かせボランティア研修会・交流会

豊岡市立図書館児童ボランティア専任講師の橋本しげみさんを招き、3月4日にあみの図書館で、「読み聞かせボランティア研修会・交流会」を開催しました。

研修会は、豊富な経験や実績をもとに、読み聞かせやブックトーク、ストーリーテリングなどの実演を入れながら、よい絵本の選び方、読み聞かせの意義、読み聞かせボランティアの役割などについてお話いただき、約60人の参加者が熱心に聞き入りました。

参加者のみなさんは、日ごろ活動する中で感じていることが再確認でき、今後の活動の励みになりました。

その後、市内で読み聞かせなどを行っている9団体のうち、「丹後町絵本読み聞かせボランティアの会」と「口大野図書館ハロウィン」が、人形劇などを披露し、それぞれの団体の活動の紹介をするなど、交流を深めました。



おすすめの本

『トキオ』（講談社）
東野 圭吾 著

難病を患い、死に直面する息子トキオを前に、拓実は妻に自分は若いころトキオに会ったことがあると語り始めます。

定職につかず、何かでかいことがしたいと思っていた拓実の前に、トキオと名乗る見知らぬ青年が現れます。別れの手紙を残していなくなった彼女をトキオとともに探し、自分の生い立ちをたどりながら拓実は少しずつ成長していきます。

親と子の見えない絆が描かれていて、さわやかな気持ちになれる作品です。

本書を所蔵している館
 峰山図書館・あみの図書館・大宮図書館
 弥栄図書室・久美浜図書館

4月の休館日

16日（月）・23日（月）・30日（月）

5月の休館日

1日（火）・7日（月）

※峰山・あみの図書館には、ブックポストがありますので、休館日の返却にご利用ください。
 ※休館日は、本紙発行日の4月10日以降、次号発行日の5月10日までを掲載しています。

子ども読書の日記念おはなし会

【峰山図書館】

◆日時 4月21日（土） 14:00～15:00
 ◆場所 峰山地域公民館 和室
 ◆内容 手品・大型紙芝居・パネルシアター「三びきのやぎとトロルのおはなし」ほか
 ◆対象者 3歳～小学生
 ※大人のかたもご参加ください。

お気軽に ご相談ください 「多重債務相談・支援室」を開設しました

自殺予防対策の一環として「多重債務相談・支援室」を開設しました。

「相談・支援室」では、市の職員が弁護士や司法書士などの専門家と連携し、債務問題のお手伝いをします。

「相談してよかった」と言われる、「相談・支援室」となるように努めていきますので、多重債務でお困りのかたは、お気軽にご相談ください。

- ◆場 所 大宮庁舎 1 階（大宮町口大野）
- ◆直通電話 ☎69-0219
- ◆開 設 日 月曜日～金曜日
（祝日および閉庁日は除きます）
- ◆時 間 9:00～16:00
- ◆相談方法 来室いただくか、電話でも構いません。

※相談は無料で、秘密は厳守します。

2007ウエスタンリーグ公式戦

1軍観戦チケット、清原選手のサインボールが当たる!!

サーパス (オリックス・バファローズ) V S 広島東洋カープ

4月21日（土）・22日（日） 峰山球場



丹後の春の風物詩「ウエスタンリーグ公式戦」の開催日程が決定しました。

今年のカードは、「サーパス（オリックス・バファローズ）」対「広島東洋カープ」の2連戦です。

迫力あるプロスポーツの醍醐味を、ぜひ味わってください。

前売券は、マイン総合案内所、市内スポーツ店、峰山駅キヨスク、市役所各市民局で販売しています。

ゲームコーナーや、京丹後市商工会のみなさんによる模擬店も用意して、みなさんのお越しをお待ちしています。

内野席

大人（中学生以上） 1,300円（当日1,500円）
子ども（小学生） 500円（当日700円）

外野席

大人（中学生以上） 600円（当日700円）
子ども（小学生） 300円（当日400円）

発行／京丹後市役所 編集／秘書広報広聴課
〒627-8567 京都府京丹後市峰山町杉谷889
☎0772-69-0110 FAX0772-69-0901
ホームページ <http://www.city.kyotango.kyoto.jp>
E-mail hishokoho@city.kyotango.kyoto.jp

人口・世帯数

男 30,927人
女 33,346人
計 64,273人
世帯数 22,071世帯
（3月1日現在）